

令和6年度

福岡市美術館 活動の記録

Fukuoka Art Museum
Annual Report 2024

凡例	3
----	---

美術館の主要事業	4
----------	---

美術館日誌	4
モナ・ハトゥム《+とー》の設置	5
今月のアート	6
第3回福岡アートアワード	7

展示活動	8
------	---

特別企画展	8
公募展	11
コレクション展	12
企画展	16
展覧会関連記事	20

教育普及活動	22
--------	----

どこでも美術館	22
スクールツアー	24
つきなみ講座	26
福岡ミュージアムウィーク2024	27
夏休みこども美術館2024	28
ファミリーDAY	29
バリアフリーギャラリーツアー	30
第10回みんなできヨウヨウ講座	31
博物館実習	31
職場体験学習	31
図書企画	32
ボランティア活動	33
出版物	37

連携・協力事業	39
---------	----

連携企画	39
連携・協力事業	40

調査・研究活動	41
---------	----

館外調査	41
紀要の発行	41

収集活動	42
------	----

美術資料	42
図書・映像資料	44

美術資料の修復・貸出	45
------------	----

修復	45
貸出	45

美術館リニューアル事業	47
-------------	----

広報業務	47
カフェ・レストラン	48
ミュージアムショップ	49

施設の利用状況	50
---------	----

展示室	50
ミュージアムホール等	56
令和6年度月別観覧者数	56

名簿	57
----	----

資料	59
----	----

本冊子は福岡市美術館の令和6年4月1日から令和7年3月31日までの活動の記録である。

本冊子の執筆者は次のとおり。それぞれの肩書きについてはp.57の名簿を参照のこと。

岩永悦子、太田早耶、姜知潤、後藤恒、崎田明香、高田瑠美、忠あゆみ、富坂綾子、中務美紀、宮田太樹、ラワンチャイクン寿子、渡抜由季(以上、学芸課)、高津佑奈(事業管理課)、島由貴(広報運営グループ)。

データの寸法(法量)は、例えば平面作品の146.2×112.3は縦146.2、横112.3(イメージサイズ)で、立体作品の74.3×46.0×11.0は高さ74.3、幅46.0、奥行き11.0で、単位はセンチメートルである。また、所蔵品番号の番号記号の意味は下記の通りである。なお、欠番の8と10は、加藤資料(8)および奥村資料(10)であったが、福岡市博物館の開館に伴い、平成3年3月31日に移管した。

1 郷土作家 ^(注1)	A 油彩画等 ^(注2)	作品番号
2 日本作家	B 日本画等 ^(注3)	
3 海外作家	C 水彩画等 ^(注4)	
4 黒田資料	D 素描	
5 東光院仏教美術資料	E 版画	
6 松永コレクション	F 写真	
7 太田コレクション	G 彫刻等 ^(注5)	
9 石村コレクション	Ha~Hf 工芸 ^(注6)	
11 森山コレクション	I 書跡	
12 三宅コレクション	J 文書	
13 山崎朝雲資料	K その他	
14 一般古美術資料	L 映像	
15 研究資料		
16 西本コレクション		
17 本多コレクション		
18 クスマコレクション		
19 藤森静雄コレクション		
20 森田コレクション		
21 川村コレクション		
22 栗田コレクション		
23 リー・コレクション		
24 小西コレクション		
25 門田コレクション		
26 教育研究資料		
27 福岡アートアワード受賞作品		
28 一杉コレクション		

例) 1-A-452 → 郷土作家・油彩画・452番

注

- 九州および山口県、沖縄県の出身・在住作家。
- A(油彩画等)の分類には、大きさの形状から油彩画と同等と思われる作品も含む。すなわちアクリル絵具による絵画、複数の技法の併用による作品、レリーフ、コラージュ、布・紙・金属等の特殊な素材による作品も含む。立体の付属物があっても正面から鑑賞される壁面展示の作品、版画技法を用いても1点制作である作品、素描であってもその大きさや表現が油彩画に匹敵すると思われる作品もまたAに分類した。
- B(日本画等)の分類には、伝統的な素材・技法・形状による中国や朝鮮の絵画も含む。
- C(水彩画等)の分類には、パステルなどの多色を基調とする作品も含む。
- G(彫刻等)の分類には、オブジェ、インスタレーションなどの立体作品も含む。
- H(工芸)は素材別に枝番号を付した。陶磁器はHa、漆工はHb、金工はHc、染織はHd、刀剣はHe、その他はHfとした。

美術館日誌

令和6年

- 4月 20日(土) ADAPTATION - KYNE (6月30日まで)
- 5月 18日(土) 福岡ミュージアムウィーク2024 (5月26日まで)
- 6月 2日(日) 美術資料収集検討会および審査(近現代美術)(オンラインにて実施)
- 7月 13日(土) キース・ヘリング展 アートをストリートへ(9月8日まで)
- 9月 14日(土) モナ・ハトゥム《+とー》の設置
- 10月 26日(土) 博多のみほとけ(12月8日まで)
- 11月 2日(土) ファミリー DAY (11月3日まで)

令和7年

- 1月 9日(木) 美術資料収集検討会(近現代美術)(オンラインにて実施)
- 2月11日(火・祝) 美術資料収集審査(近現代美術・福岡アートアワード)
- 3月 6日(木) 美術資料収集審査(古美術)
- 3月 25日(火) 「第56回福岡市美術展」開催(3月30日まで)
- 3月 28日(金) 第3回福岡アートアワード授賞式
- 3月 29日(土) 第3回福岡アートアワード受賞作品展(6月1日まで)

モナ・ハトゥム《+とー》の設置

国内外の多くの美術館には、女性作家の所蔵品が少ないという課題がある。その背景には、女性の役割が家庭と結びつき、女性作家が社会の中で自己実現をしていくことが困難で、その名前も作品も残りにくかった長い歴史がある。

同じ課題を共有する当館では、近年、女性作家に光をあてた企画や収集に取り組んでいる。例えば、2023年の作品収集は塩田千春《記憶をたどる船》であった。モナ・ハトゥム《+とー》も、こうした当館の取り組みの一環で収蔵した。しかも、建築と一体化させた恒常的な展示作品として新たに制作し、床に埋め込んだ作品である。

この大型の《+とー》は、1994年の「ミュージアム・シティ・天神94【超郊外】」で初めて世に紹介された。モダンアートバンクヴァルト(博多区千代)に展示され、その後、同作の別バージョンが世界各地で発表されてきた。まさに《+とー》は、福岡から旅立ち世界を巡り、30年を経て福岡に帰って居場所を見つけた、と言えるだろう。

敷き詰められた800キロの砂の上を、ゆっくりと回転するバーの半分が模様を刻み、もう半分が模様をかき消していく。この永遠に繰り返される動作に、ポジティブとネガティブ、創造と破壊、生と死、光と闇、希望と絶望など、対立するふたつの力が相互に作用しながら表裏一体となって巡る世の原理が示されている。

その構想の源には、パレスチナ人の両親のもとレバノン・ベイルートに生まれ、ロンドン旅行中に勃発した内戦により帰郷できなくなった作者の体験がある。作者は、今も繰り返される戦争と平和を想起させつつ、同時にネガティブのあとにポジティブが訪れるという希望を託している。

世界各地で発表された本作は、作者の代表作のひとつである。

なお、記念講演とその後のインタビューで、作者は、この作品の発想の源には、東洋哲学、なかでも『易経』で述べられている変化や陰陽、ヒンドゥー教の伝統に由来する瞑想があることを明かしている。また、作者は、自身の作品について、見た人が自分の言葉で解釈し、自分の経験や背景と関連づけられるような、自由に解釈できる作品を創るのが好きだと述べており、まさに本作はそうした作品のひとつとなっている。

※詳しくは「エスプラナードNo.218」(2025年1月号)参照

作品情報

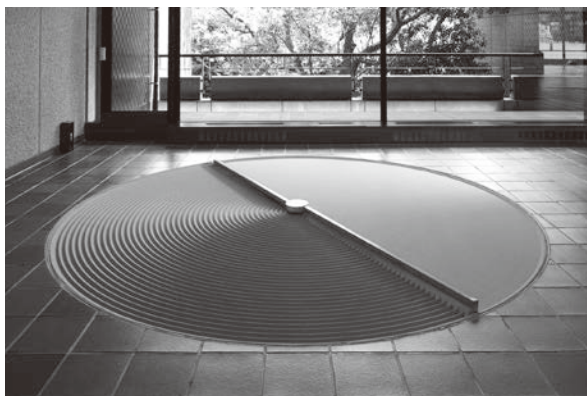
作者：モナ・ハトゥム

作品名：《+とー》

制作年：1994年／2024年

寸法：直径404cm

素材：ステンレス鋼、砂、モーター



関連イベント

■記念講演会

日時：9月14日(土)14:00～15:30

会場：ミュージアムホール

講師：モナ・ハトゥム

聴講者：91人

作家情報

1952年 レバノン・ベイルート生まれ(両親はパレスチナ人)、英国在住。1975年英国旅行中にレバノンで内戦が勃発し、帰国できなくなる。自身の経験をもとに、疎外された人間の苦しみや政治的抑圧など、社会の矛盾を表現するアーティストとして国際的な評価を得ている。日本では、2017年にヒロシマ賞、2019年に高松宮殿下記念世界文化賞を受賞。

今月のアート

市長定例会見時に、福岡市で活躍するアーティストの作品を掲示し紹介するとともに、市役所9階特別応接室に展示した。定例会見がない月は、原則として前月の作品を継続展示した。

市長会見展示作品

令和6年	4月	KYNE 《Untitled》
	5月	稲光 亜記 《やわらかな光》
	6月	mosekijin 《F.(2)》
	7月	maruu 《蓮の音》
	8月	清藤 なつえ 《へいわ と わたし 2023》
	9月	川村 愛 《霽月》
	10月	
	11月	興侶 優護 《≡22》
	12月	加藤 玄彰 《鵜の叫び》
令和7年	1月	平原 恭輔 《冬の日に犬を抱く》
	2月	井上 愛理 《All living things have meaning》
	3月	

設置風景写真



会見室



特別応接室

第3回福岡アートアワード

福岡アートアワードは、福岡市美術館が、Fukuoka Art Nextの一環として実施する事業で、福岡市内で目覚ましい活動をおこない、今後さらなる飛躍が期待できるアーティスト(美術作家)を対象に、作品の買い上げをもって贈賞する。贈賞によりアーティストを支援し、買い上げ作品は福岡市美術館の所蔵品として展示活用される。これにより、福岡市にアーティストが集まり、質の高い作品の展示や市民がアートに親しむ機会が増え、福岡市が彩りにあふれたアートのまちとなることを目指す。本年度は市長賞1組、優秀賞3組の計4組が受賞した。

選考過程

第1次選考委員会 令和6年11月10日(日)

第2次選考委員会 令和6年12月17日(火)

選考委員

水沢勉(美術史家・美術評論家)

植松由佳(国立国際美術館 学芸課長)

堀川理沙(ナショナル・ギャラリー・シンガポール、
キュレトリアル&コレクションズ ディレクター)

第3回受賞作家・作品

■市長賞

牛島智子《家婦》2020年



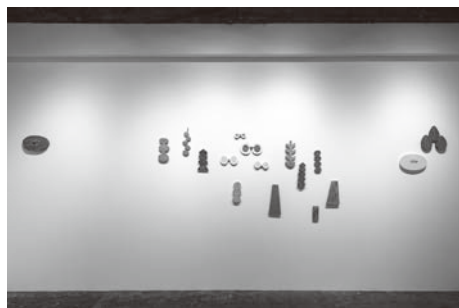
《家婦》

■優秀賞

オーギカナエ《空に登って集まって、めじろ眼鏡の森、白い花～植物は考え歩き行動する～》2024年

SECOND PLANET《カタストロフが訪れなかった場所》2024年

興梠優護《／72》2018(加筆2020)年



《空に登って集まって、めじろ眼鏡の森、白い花
～植物は考え歩き行動する～》



《カタストロフが訪れなかった場所》



《／72》

関連イベント

■第2回福岡アートアワード受賞作家トークセッション

日時 令和6年5月19日(日) 14:00～16:00

会場 ミュージアムホール

■第3回福岡アートアワード授賞式

日時 令和7年3月28日(金) 13:30～14:00

会場 近現代美術室B前ロビー

■第3回福岡アートアワード受賞作品展

会期 令和7年3月29日(土)～6月1日(日)

会場 近現代美術室B

■第3回福岡アートアワード受賞作家ギャラリートーク

日時 令和7年3月29日(土) 14:00～15:00

会場 近現代美術室B

特別企画展

ADAPTATION - KYNE



ポスター



会場風景

- 会 期 令和6年4月20日(土)～6月30日(日)
- 会 場 特別展示室
- 内 容 KYNE(キネ)は、1988年に生まれ、大学時代に日本画を学び、2006年頃から活動を開始した、福岡を拠点とするアーティスト。1980年代の漫画やアイドルのレコード・ジャケットからインスピレーションを受けた、クールな表情の女性を描いた絵画作品で知られている。2010年代から次第に知られるようになったKYNEの作品は、アパレルブランドとのコラボレーション、CDジャケットのイラスト、広告などを展開することで、国内外で大きな注目を集めている。2020年から2022年まで福岡市美術館で公開した横13mの壁画《Untitled》も大きな話題となった。
- 出 品 点 数 約200点
- 主 催 KYNE展実行委員会
(福岡市美術館、インディチェ、LOCUS、(公財)福岡市文化芸術振興財団)
- 観 覧 料 一般1,700円、高大生1,000円、中学生以下無料
※身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳の提示者とその介護者1名および特定疾患医療受給者証、特定医療費(指定難病)受給者証、先天性血液凝固因子障害等医療受給者証、小児慢性特定疾病医療受給者証の提示者は観覧無料
※数量限定オリジナルノックボールペン付きチケット 2,000円
- 開 催 日 数 62日間
- 観 覧 者 数 34,846人
- 印 刷 物 【ポスター】B2
【チラシ】A4
【図録】1種

展覧会担当：岩永悦子、忠あゆみ

関連イベント

日	イベント名	時間	内容	会場
5月12日(日)	学芸員によるギャラリートーク	13:00～13:40	講師：岩永悦子 参加者：53人	特別展示室
6月8日(土)	学芸員によるギャラリートーク	13:00～13:40	講師：岩永悦子 参加者：53人	特別展示室
5月25日(土)	トークセッション	14:00～15:30	講師：KYNE(作家)、岩永悦子 参加者：156人	ミュージアムホール
6月8日(土) 9日(日)	サイン会	各日11:00～13:00	講師：KYNE(作家) 参加者：6月8日 92人、6月9日 149人	2階ロビー

キース・ヘリング展 アートをストリートへ



チラシ



会場風景

会期 令和6年7月13日(土)～9月8日(日)
会場 特別展示室
内容 明るく、ポップなイメージで世界中から愛されているキース・ヘリング。ヘリングは「アートはみんなのために」という信念のもと、1980年代のニューヨークを中心に地下鉄駅構内やストリート、つまり日常にアートを拡散させることで、混沌とする社会へ強いメッセージを発信し、人類の未来と希望を子どもたちに託した。ヘリングが駆け抜けた31年間の生涯のうちアーティストとしての活動期間は10年程だが、残された作品に込められたメッセージはいまなお響き続けている。本展では6メートルに及ぶ大型作品を含む約150点の作品を展示し、ヘリングのアートを紹介した。

出品点数 約150点
主催 キース・ヘリング展福岡実行委員会(福岡市美術館、西日本新聞社、西日本新聞イベントサービス、KBC、東映)

特別協力 中村キース・ヘリング美術館
協力 ぴあ
後援 福岡県、福岡県教育委員会、福岡市教育委員会、(公財)福岡市文化芸術振興財団、西日本鉄道

観覧料 一般1,800円、高大生1,200円、小中生800円
※身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳、障害者手帳アプリ「ミライロID」の提示者とその介護者1名、および特定疾患医療受給者証、特定医療費(指定難病)受給者証、先天性血液凝固因子障害等医療受給者証、小児慢性特定疾病医療受給者証の提示者は観覧無料
※未就学児無料

開催日数 50日
観覧者数 36,530人
印刷物 【チラシ】A4
【ポスター】B1、B2

展覧会担当：山田隆行

博多のみほとけ



ポスター



会場風景

会期 令和6年10月26日(土)～12月8日(日)

会場 特別展示室

内容 アジアとの窓口であった博多を擁する福岡の地は、古来、外国との交流を通して都市の歴史を紡いできた。そのため、当地に所在する神社仏閣には、仏像、絵画、工芸など様々な文物が大切に守り伝えられており、往時の交流の様子をしのぶよすがとなっている。本展は、コの字の形をした展示室を博多湾に見立てて、それぞれの地域に伝わる仏教美術を紹介するものである。福岡における八幡信仰の拠点であった筥崎がある東部地域、禅宗寺院をはじめとする古刹が薈を連ねる中部地域、日本に禅宗をもたらした栄西禅師が拠点とした今津が所在する西部地域など、各地域が持つ豊かな歴史について理解を深める機会となる。また、博多に関わる名僧として忘れることができないのが、日本最初の禅寺・聖福寺の住持をつとめた仙厓義梵である。仙厓は、親しみやすい禅画によって人びとから慕われたことは良く知られているが、博多の名所旧跡を訪れて多くの風景画を描いている。仙厓の目を通した博多を見ることで、古来、積み重ねられてきた場所の記憶を感じることができただろう。

出品点数 61件

主催 特別展「博多のみほとけ」実行委員会

観覧料 一般1,400円、高大生900円、中学生以下無料

※身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳、障害者手帳アプリ「ミライロID」の提示者とその介護者1名 および 特定疾患医療受給者証、特定医療費(指定難病)受給者証、先天性血液凝固因子障害等医療受給者証、小児慢性特定疾病医療受給者証の提示者は観覧無料

開催日数 38日間

観覧者数 8,453人

印刷物 【ポスター】B2
【チラシ】A3二つ折り
【図録】B5・136頁

展覧会担当：宮田太樹

関連イベント

日	イベント名	時間	内容	会場
10月26日(土)	記念講演会「博多湾の国際性と宗教文化」	14:00～15:30	講師：伊藤幸司(九州大学大学院教授) 参加者：105人	ミュージアムホール
11月9日(土)	つきなみ講座「博多のみほとけ」	15:00～16:00	講師：宮田太樹 参加者：127人	ミュージアムホール
①11月23日(土) ②11月28日(木) ③12月7日(土)	スペシャルギャラリートーク	14:30～15:30	講師：中山喜一郎、宮田太樹 参加者：①45人②50人③35人	特別展示室

公募展

第56回(令和6年度)福岡市美術展



ポスター



大賞《ずっとここにいる》園田瑞穂

会期 令和7年3月25日(火)～3月30日(日)
会場 特別展示室 ギャラリー(全室)
内容 福岡市美術展は、美術の各分野における市民の創造活動を促進し、その成果の発表と鑑賞の機会を提供することにより、市民の美術活動の振興を図ることを目的とした公募展。全7部門に562人(656点)より応募があり、70人(70点)が入賞、309人(320点)が入選となった。

出品及び展示状況

区 分		日本画	洋画	彫刻	工芸	書	写真	デザイン	計
出品(応募)人数		17	143	17	40	159	138	48	562
出品(応募)点数		18	178	18	47	161	183	51	656
展 示 点 数	入賞	3	18	2	5	17	19	6	70
	入選	9	82	10	21	85	92	21	320
	招待	0	1	0	1	1	0	2	5
	審査員	3	4	4	3	5	5	2	26
計		15	105	16	30	108	116	31	421

入賞 (1)福岡市美術展大賞1名(日本画)賞金20万円
(2)福岡市長賞7名(各部門1名)賞金各10万円
(3)福岡市議会議長賞2名(書・デザイン)、福岡市教育委員会賞1名(日本画)、福岡県美術協会賞1名(写真)、福岡市美術連盟賞1名(洋画)、福岡文化連盟賞1名(工芸)、福岡市文化芸術振興財団賞1名(デザイン)、西日本新聞社賞3名(洋画・書・写真)賞金各3万円
(4)福岡県美術協会奨励賞2名(洋画・彫刻)、福岡市美術連盟奨励賞2名(写真・デザイン)
(5)奨励賞48名(洋画14名・工芸3名・書14名・写真15名・デザイン2名)

主催 福岡市、福岡市教育委員会、福岡市美術展運営委員会

後援 福岡県、(公社)福岡県美術協会、福岡文化連盟、(公財)福岡市文化芸術振興財団、西日本新聞社、福岡市美術連盟

観覧料 一般600円、高大生400円、中学生以下無料

開催日数 6日間

観覧者数 3,705人

印刷物 【ポスター】B2

【チラシ】A4

【開催要項】A3二つ折り

【図録】A4変形・50頁

関連イベント

日	イベント名	時間	会場
3月7日(金)	入選者発表	—	1階ロビー
3月29日(土)	表彰式	13:00～14:00	ミュージアムホール
3月29日(土)	ギャラリートーク(大賞部門のみ)	16:00～16:30	展示室

コレクション展

近現代美術室A

■コレクションハイライト

令和6年6月13日(木)～令和7年6月1日(日)

今年度のコレクションハイライトでは、「ナショナル／トランスナショナル」として7つの章を設け、作家・作品を国別に紹介した。「国」として美術を分類・展示することは、鑑賞の手がかりとなる一方で、作品の多様性を単純化する危険もある。実際、多くの作家は複数の文化圏で活動しており、複雑なナショナル・アイデンティティを有している。こうした認識のもと、国という枠組みの限界にも意識を向ける展示構成とした。

第一部では、当館の収蔵品第一号で、19世紀のフランスで活躍した画家ラファエル・コランの《海辺にて》を皮切りに、①フランスにゆかりのある作家の作品を特集した。

展覧会担当：山田



■夏休みこども美術館2024「道、その先には何がある？」

令和6年6月13日(木)～9月1日(日)

本展では、美術作品において様々な広がりや展開をみせる「道」というモチーフに注目し、子どもたちに向けて絵画や立体など14点の所蔵作品を紹介した。展示構成を「ちかくの道、とおくの道」、「いっば、には、さんぽ 歩いてみる」、「道、その先には何がある？」という3つの章に分け、各章ごとに、日常生活空間のなかにある身近な道や、幻想的な風景の中に続く道を描いた作品、或いは、道を歩くということから連想して選定した、靴を主題にした作品など、「道」を広く捉えて想像を促すような作品を並べた。

展覧会担当：高田



■水彩って何？

令和6年9月14日(土)～12月8日(日)

本展は水彩の技法と材料に着目し、所蔵品である水彩画を20点展示したものである。「線描・点描」「重ね塗り」「ドリップング」「グラデーション」「にじみ」の章構成で技法を、また水彩絵具のサンプルと絵具の原料を展示し材料をそれぞれ紹介した。

展覧会担当：渡抜



■雪景色

令和6年12月10日(火)～令和7年3月23日(日)

日本では、古くから春夏秋冬の美しい景色や風物が和歌や俳句に詠まれ、絵画や工芸の中に表現されてきた。本展では、明治時代以降の雪景色を描いた日本画と木版画を紹介し、

胸中の景色を描いた四季山水図から、西洋美術の写実的な表現の影響を受け、写生に基づいて目の前の景色を切り取る風景画への変化をご覧いただいた。また、美人画の名手だった伊東深水による情感あふれる女性のイメージ、旅の画家だった吉田博が心惹かれた風景に焦点を当てた。参考出品として、江戸時代の器や茶釜も合わせて展示した。

展覧会担当：ラワンチャイクン



近現代美術室B

■新収蔵品展

令和6年3月28日(木)～6月2日(日)

令和5年度に寄贈によって新しく収蔵された4作家18点の作品を紹介した。

出品作家：高巢典子、藤野一友、山本作兵衛、吉田博
展覧会担当：忠



■第2回福岡アートアワード受賞作品展

令和6年3月28日(木)～6月2日(日)

詳細は福岡アートアワード(p.7)を参照。第2回福岡アートアワード受賞作品を展示した。出品作家：ソー・ソウエン(市長賞)、イ・ヒョンジョン(優秀賞)、山本聖子(優秀賞)

展覧会担当：渡抜



ソー・ソウエン〈お隣と呼吸〉2022年

■野見山暁治のしごと

令和6年6月13日(木)～9月1日(日)

2023年6月に逝去した画家・野見山暁治の仕事を振り返る展覧会。野見山は東京と福岡の二拠点で活動し、102年にわたる生涯を通じて、描くことへの探究を続けた。没後1年の節目にあたる本展では、当館所蔵の《人間》《モレア》およびリトグラフの『旅と雲』シリーズに西日本シティ銀行所蔵の作品を加えた34点を展示し、その多彩な表現の軌跡を紹介した。

展覧会担当：忠



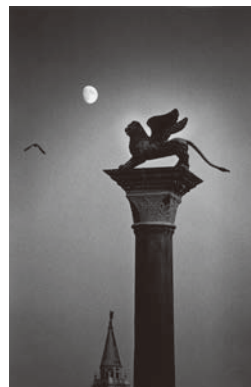
野見山暁治《人間》1961年

■奈良原一高 「ヴェネツィアの夜」「ジャパネスク」

令和6年12月18日(水)～令和7年3月23日(日)

福岡県大牟田市出身の奈良原一高(1931-2020)は1956年に個展「人間の土地」以降、ドキュメンタリーでありながら自身の内面も反映した写真作品を発表し、戦後日本を代表する写真家となった。第3弾となる本展では「ヴェネツィアの夜」と「ジャパネスク」の各シリーズを紹介した。

展覧会担当：高山



《落日(1) <ヴェネツィアの夜>より》
撮影：1964-85年、プリント：1983年

近現代美術室C

■コレクションハイライト

令和6年6月13日(木)～令和7年6月1日(日)

「ナショナル／トランスナショナル」のテーマのもと、作家・作品を国別に紹介する展示の第二部。②スペイン、③ドイツ・イタリア、④アメリカ、⑤戦後日本の美術、⑥九州と反博を特集したコーナーに加え、⑦一つの国に限定されない複雑なアイデンティティをもっている作品を紹介し、国によって作家を分類することの難しさや恣意性を意識しながら、その枠組みを超えたトランスナショナルな在り方に着目した。

展覧会担当：山田



東光院仏教美術室

■東光院のみほとけ

薬王密寺東光院(福岡市博多区吉塚)から寄贈された、重要文化財を含む仏像を展示。薬師如来坐像、二組の十二神将立像など、重要文化財25躯をはじめとする木彫仏を、4ヶ月に一度展示替えをしながら公開した。

展覧会担当：宮田、後藤



通期

古美術企画展示室

■新収蔵品展(古美術)

令和5年度に寄贈や購入によって新たに収蔵された作品134件の中から44件を精選し、関連作品1件を加えて展示した。

展覧会担当：宮田

令和6年4月23日(火)～6月16日(日)



■源氏物語の世界

紫式部が執筆した『源氏物語』は、平安時代の華やかな貴族文化の象徴として、長く人びとに愛された。本展では、『源氏物語』や紫式部にまつわる、絵画や工芸17点を紹介した。

展覧会担当：宮田

令和6年6月18日(火)～8月4日(日)



《竹長春花文蒔絵筆箱(源氏物語入)》

■田中丸コレクション

華やかなる九州の桃山茶陶

令和6年8月6日(火)～9月29日(日)

九州古陶の優品を揃える田中丸コレクション。本展はその中から唐津、高取、上野、薩摩などの九州で作られた桃山時代の茶陶に焦点を当て、当館所蔵品も加えた47件により華やかな桃山の美の世界を紹介した。

展覧会担当：久保山炎((一財)田中丸コレクション学芸員)、後藤



《絵唐津菖蒲文茶碗》(重要文化財)
田中丸コレクション

■僊厓展

令和6年10月1日(火)～11月24日(日)

親しみやすい書画を通して禅の教えを伝え、人びとから慕われた僊厓義梵の作品35点を紹介した。また、福岡市美術館の公式マスコットである《こぶうしくん》がミュージアムアワード2024において2位を受賞したことを記念して、「【特別公開】コブウシ土偶の世界」展も同時開催した。

※「仙厓」と表記されることが多いが、本展では正式な僧名である「僊厓」の表記を用いた。

展覧会担当：宮田



僊厓義梵《指月布袋図》

■染と織の美術

令和7年1月22日(水)～3月16日(日)

染織作品の魅力は、染めによる鮮やかな色彩と、織りによる精緻な文様にある。本展では、所蔵品27点を通して、染めの材料や織りの技法を紹介し、その美しさの秘密に迫った。

展覧会担当：宮田、太田



《繡仏裂》

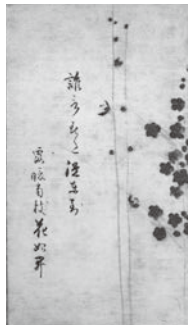
松永記念館室

■春の名品展

令和6年3月19日(火)～6月2日(日)

松永記念館室に常時陳列されている野々村仁清《色絵吉野山図茶壺》(重要文化財)にあわせて、春の訪れから初夏へと移ろう時節に適した茶道具を中心に、松永コレクションから精選した名品20件を展観した。

展覧会担当：後藤



伝・尾形光琳《金銀泥梅花図》

■表具のキホン

令和6年6月4日(火)～8月18日(日)

鑑賞や保存のために、書や絵画を紙や裂地等を使って掛軸や巻物、屏風などに仕立てること、またそのように表装した部分を「表具」あるいは「表装」と呼ぶ。本展



では、鑑賞の際に表具が大きな役割を果たす掛軸に焦点を当て、松永コレクションの名品を中心に作品14点を通してその基本について紹介した。

展覧会担当：太田

■秋の名品展

令和6年8月20日(火)～10月27日(日)

尾形乾山の名作である《花籠図》(重要文化財、半期展示)や伝・俵屋宗達《月に竹蔦図屏風》など、秋の情趣に相応しい作品16点を松永コレクションから精選して紹介した。

展覧会担当：宮田



伝・俵屋宗達《月に竹蔦図屏風》

■松永耳庵と福岡ゆかりの品々

令和6年10月29日(火)～令和7年1月26日(日)

松永耳庵は、茶の湯を通して福岡ゆかりの実業家や美術家と交流した。本展では、仰木魯堂・政斎・團琢磨・伊能、内本浩亮などの福岡ゆかりの人物にまつわる品々を、松永コレクションを中心とした作品17点によって紹介した。

展覧会担当：宮田



伝・俵屋宗達《源氏物語図》

■高麗茶碗と和物茶碗

令和7年1月28日(火)～3月23日(日)

朝鮮半島で作られた高麗茶碗と、国内で作られた和物茶碗。室町時代より茶人たちが好んだ両国における茶碗を、松永コレクションに含まれる名碗を中心に18件展観した。

展覧会担当：後藤



《志野筒茶碗 銘「露香」》

企画展

西日本シティ銀行コレクション展



チラシ

会期 令和6年9月14日(土)～10月14日(月・祝)
会場 特別展示室
内容 福岡市美術館では、西日本シティ銀行が所蔵する現代美術作品28点の寄託を受けている。これらは、稀代の美術コレクターとして知られる四島司氏(1925-2015／元・福岡シティ銀行頭取)によって収集された作品群であり、クリスト、ジャクソン・ポロック、辰野登恵子など国際的に活躍する作家の作品を含む。西日本シティ銀行創立20周年を記念し、寄託作品を一挙公開した。

福岡市美術館は1979年の開館以来、「現代美術」の収集を指針の一つにしており、継続的に現代美術作品を展示しているため、1970年代以降に収集された地元企業所蔵の作品を美術館で展示することで、お互いのコレクションを補完する機会となった。また、会場内には四島司氏の言葉を掲出し、四島氏の審美眼に思いを馳せつつ作品を鑑賞する機会となった。

出品点数 27点
主催 福岡市美術館
助成 西日本シティ財団
観覧料 コレクション展示観覧料
開催日数 27日
観覧者数 6,845人
印刷物 【ポスター】B2
【リーフレット】A3見開き4頁

展覧会担当：忠あゆみ

会場風景



あらがう



ポスター・チラシ

会期 令和6年9月14日(土)～12月15日(日)
会場 近現代美術室B
内容 令和6年、福岡市美術館は開館45周年を迎えた。福岡市美術館が開館した1979年頃、30年後に訪れる21世紀は、さまざまなものが発達し、人々にとって暮らしやすい社会になっていると予想されていた。しかし、21世紀も四半世紀が過ぎた現在、テクノロジーやコミュニケーション手段の発達によって便利な社会にはいるものの、ロシアのウクライナ侵攻やパレスチナでの戦争をはじめ世界各地で戦火は絶えず、戦争や災害、経済格差などで苦しむ人々が多数存在している。本展は、私たちがこうした社会の状況を、どのように受け止め、立ち向かうべきかを考える機会とした。展覧会では、石原海、寺田健人、李晶玉の3名の若手美術作家による作品12点を紹介した。それぞれ映像、写真、絵画という異なる表現手法を使った、1990年代生まれの作家たちである。若き作家たちの作品をとおり、時代や社会の波に立ち向かっていく術を考えた。

出品点数 3作家12点
主催 福岡市美術館
観覧料 コレクション展示観覧料
開催日数 80日
観覧者数 70,450人(会期中のコレクション展観覧者数)
印刷物 【ポスター】B2
【チラシ】A4
【図録】A4変形・32頁

展覧会担当：企画＝山木裕子(福岡アジア美術館)
コーディネート＝ラワンチャイケン寿子

会場風景(撮影：スタジオ・パッション)



関連イベント

日	イベント名	時間	内容	会場
10月27日(日)	アーティスト・トーク	14:00～15:00	講師：石原海(作家)、李晶玉(作家)	近現代美術室B
11月2日(土)	アーティスト・トーク	14:00～14:30	講師：寺田健人(作家)	近現代美術室B
11月2日(土)	ギャラリー・トーク	14:30～15:00	講師：山木裕子	近現代美術室B

生誕260年 世を観る眼 白酔庵・吉村観阿



ポスター



会場風景



会 期 令和6年11月27日(水)～令和7年1月19日(日)
会 場 古美術企画展示室
内 容 吉村観阿(1765～1848)は江戸時代後期に茶の湯道具の“目利き”で人生を切り拓いた人物である。江戸に生まれ、家業の両替商を営んでいたが34歳で出家し、浅草に庵(白酔庵)を結ぶ。40歳の頃より大名茶人・松平不昧(1751～1818)と交流するようになると、目利きの才覚を認められて頭角をあらわす。不昧没後は新発田藩主・溝口家に入入りし、同家の蔵品の鑑定や数寄道具の取り次ぎ(道具を見出して、納めること)で活躍した。かくして目利きとしての名声を江戸中にとどろかせた観阿は多くの作品を見出し、その箱に、自ら鑑定したことを記した。後世、観阿の箱書きのある作品は間違いがないという評判が広まってそれ自体が作品の価値をより一層高めている。本展は吉村観阿の生誕260年の記念に企画したもので、この人物に焦点を当てたおそらく初の展覧会である。観阿が見出して大名家等に納めた作品、自ら愛蔵した茶道具、自作の茶杓や茶碗、江戸の文化人との交流を物語る資料など53件を展示し、謎多き目利きの足跡とその美意識に迫った。

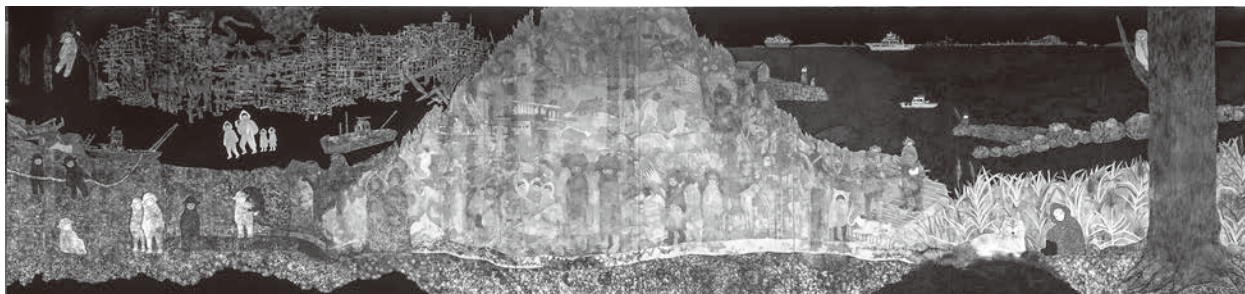
出品点数 53件
主催 福岡市美術館
観覧料 コレクション展示観覧料
開催日数 40日
観覧者数 29,922人(会期中のコレクション展観覧者数)
印刷物 【ポスター】B2
【チラシ】A4
【図録】B5・128頁

展覧会担当：後藤恒

関連イベント

日	イベント名	時間	内容	会場
11月30日(土)	トークイベント 「知られざる“目利き” 吉村観阿とは何者か？」	14:00～15:30	講師：宮武慶之 (同志社大学 京都と茶文化研究センター共同研究員) 聞き手：後藤恒 参加者：163人	ミュージアムホール
12月21日(土)	つきなみ講座「吉村観阿展の見どころ紹介」	15:00～16:00	講師：後藤恒 参加者：56人	レクチャールーム

田中千智《生きている壁画》 令和7年



会期 令和5年1月5日(木)～令和7年12月末

内容 福岡市在住の画家・田中千智が、企画展「田中千智展 地平線と道」展(令和5年1月5日～3月21日)に合わせ、近現代美術室のロビー壁面に制作したもの。令和5年1月末に第1段階、令和6年1月に第2段階と加筆が進み、令和7年1月7日(火)から1か月間かけて加筆を行い、完成した。

初年度は暗い森に子どもたちや生き物が息づく静かな雰囲気の商品であったが、2年目には中央に黄色い光が差し、3年目には、燃え盛る炎を思わせる描写へと変化していった。愛らしい子どもや動物の姿とともに、壊れた家屋や戦争を思わせるモチーフが登場し、争い・災いが絶えない社会においても、共感や想像力を忘れずに生きる姿勢が表現されている。本作は、令和7年12月末まで展示。



関連イベント

日	イベント名	時間	内容	会場
2月22日(土)	《生きている壁画》第3段階完成記念トーク	14:00～15:30	講師：田中千智(作家) 聞き手：忠あゆみ 参加者：180人	ミュージアムホール

展覧会関連記事

令和6年4月1日～令和7年3月31日の展覧会・美術館事業に関連する主要な新聞・雑誌・WEB媒体記事をまとめた。
※カッコ内は執筆者名。表記・肩書は元記事のままとした。

特別企画展

ADAPTATION-KYNE		
美術手帖 (https://bijutsutecho.com/magazine/news/report/28824)	R6.4.20	「ADAPTATION - KYNE」(福岡市美術館)開幕レポート。地元福岡でふり返るその活動の軌跡
西日本新聞(朝刊)	R6.5.9	ADAPTATION-KYNE
西日本新聞(朝刊)	R6.5.29	福岡市在住のKYNEさん 福岡市美術館で初の大規模個展(稲葉光昭)
西日本新聞(朝刊)	R6.6.7	ストリートと女性描くKYNEさん 福岡市美術館でトーク(丸田みずほ)

キース・ヘリング展 アートをストリートへ		
西日本新聞(朝刊)	R6.6.28	本社のイベント／ポップなアート150点 来月13日から「キース・ヘリング展」
西日本新聞(夕刊)	R6.7.3	キース・ヘリング展 「日常」アート150点
西日本新聞(朝刊)	R6.7.13	キース・ヘリング展きょう開幕
西日本新聞 (https://artne.jp/column/2232)	R6.7.25	アートを大衆に「開放」 福岡市美術館で「キース・ヘリング展」(川口史帆)
西日本新聞(朝刊)	R6.8.6	美術史にストリート持ち込む キース・ヘリング展に寄せて(東京芸術大教授 毛利嘉孝)
天神経済新聞 (https://tenjin.keizai.biz/headline/7945/)	R6.8.7	福岡市美術館で「キース・ヘリング展」 日本初公開作品など150点展示

博多のみほとけ		
西日本新聞(朝刊)	R6.10.4	本社のイベント／福岡ゆかりの仏教美術品 26日から特別展「博多のみほとけ」(山上武雄)
西日本新聞(朝刊)	R6.11.8	特別展「博多のみほとけ」 海に捧げた祈り 上 (宮田太樹)
西日本新聞 (https://artne.jp/column/2232)	R6.11.9	対外交流と祈りの歴史 特別展「博多のみほとけ」 福岡市美術館 12月8日まで 博多湾沿岸の仏像を一堂に(野村大輔)
天神経済新聞 (https://tenjin.keizai.biz/headline/8010/)	R6.11.13	福岡市美術館で特別展「博多のみほとけ」 仏像、絵画、工芸など紹介
西日本新聞(朝刊)	R6.11.15	特別展「博多のみほとけ」 海に捧げた祈り 中 (宮田太樹)
西日本新聞(朝刊)	R6.11.22	特別展「博多のみほとけ」 海に捧げた祈り 下 (宮田太樹)

企画展

西日本シティ銀行コレクション展		
西日本新聞(朝刊)	R6.9.6	西日本シティ銀行コレクション展
西日本新聞(朝刊)	R6.10.4	文化短信／西日本シティ銀行コレクション展
毎日新聞(朝刊)	R6.10.5	企画展「西日本シティ銀行コレクション展」

あらがう		
美術手帖(https://bijutsutecho.com/magazine/news/promotion/29579)	R6.10.1	福岡市美術館「あらがう」に見る、奮起する重要性(編集部)
西日本新聞(朝刊)	R6.11.19	時代に呼応した企画展 福岡・熊本3館で(丸田みずほ)
毎日新聞(朝刊)	R6.11.29	社会問題や歴史の記憶考えさせる 「あらがう」展(渡辺亮一)
読売新聞(朝刊)	R6.12.14	回顧2024 美術(白石知子)
西日本新聞(朝刊)	R6.12.25	美術／混迷の時代に向き合う(丸田みずほ)

生誕260年 世を観る眼 白酔庵・吉村観阿		
陶説 通巻855号	R6.11.1	生誕260年 世を観る眼 白酔庵・吉村観阿(宮武慶之、後藤恒)
目の眼 通巻578号	R6.11.15	特集 松平不昧に愛された茶人 吉村観阿

コレクション展

野見山暁治のしごと		
西日本新聞(朝刊)	R6.7.4	没後1年 野見山暁治さんのび各地で展覧会(丸田みずほ)
読売新聞(朝刊)	R6.7.6	野見山さん没後1年 長崎などで展覧会

夏休み子ども美術館2024「道、その先には何がある？」		
毎日新聞(朝刊)	R6.7.20	夏休み子ども美術館2024「道、その先には何がある？」

田中丸コレクション 華やかなる九州の桃山茶陶		
西日本新聞(朝刊)	R6.9.6	田中丸コレクション 華やかなる九州の桃山茶陶

奈良原一高「ヴェネツィアの夜」「ジャパネスク」		
西日本新聞(朝刊)	R7.1.17	奈良原一高「ヴェネツィアの夜」「ジャパネスク」

高麗茶碗と和物茶碗		
西日本新聞(朝刊)	R7.1.24	高麗茶碗と和物茶碗

教育普及事業

毎日新聞(夕刊)	R6.4.19	広がる「やさしい日本語」(原奈摘)
読売新聞(夕刊)	R6.6.14	福岡 年2回 ベビーカーツアー(原聖悟)
読売新聞(朝刊)	R6.9.16	気になるIサーチ／誰でも安心 芸術鑑賞(南佳子)
西日本新聞(朝刊)	R6.11.1	ファミリーDAY2024

第2回福岡アートアワード

西日本新聞(朝刊)	R6.5.24	福岡アートアワード 他者との摩擦から浮かび上がる自身の存在(丸田みずほ)
-----------	---------	--------------------------------------

その他美術館事業

毎日新聞(朝刊)	R6.5.19	「美術館と社会課題」テーマ 福岡市美術館 中山総館長が講演(栗栖由喜)
西日本新聞(朝刊)	R6.6.6	巨大ロボット展 星雲賞
西日本新聞(朝刊)	R6.6.21	教室「『紫式部日記』・『源氏物語』・藤原実資『小右記』中の筑前を読む」
毎日新聞(朝刊)	R6.6.23	涼しい夜に ゆっくりアートを 福岡市美術館 今年も夜間開館(竹林静)
西日本新聞(朝刊)	R6.9.15	福岡城跡などでアートイベント(斉藤幸奈)
毎日新聞(朝刊)	R6.9.19	福岡の街中 アートで彩る 「FaN Week」開催中(竹林静)
西日本新聞(朝刊)	R7.1.24	トムとジェリーの世界 あすから誕生85周年記念展(緒方明日香)
西日本新聞(朝刊)	R7.1.25	「トムとジェリー展」 きょうから福岡市美術館(緒方明日香)

公募展

西日本新聞(朝刊)	R7.3.11	「福岡市美術展入賞者紹介 上」
西日本新聞(朝刊)	R7.3.12	「福岡市美術展入賞者紹介 下」

どこでも美術館

当館のアウトリーチ活動として平成28年度より開始した教育普及事業。館外で作品鑑賞や美術体験ができる、当館オリジナルの持ち出し式の教材（ボックス）を使用したプログラムを実施。本教材は、学校等への貸出も行っている。

1 どこでも美術館ティーチャーズ・プラス

学校での美術鑑賞授業などに活用してもらうため、ボックスの貸出を行っている。

対象：主に市内の小・中・高校

貸出ボックス：

絵画①マルク・シャガール《空飛ぶアトラージュ》複製

②長谷川派《韃靼人狩猟図屏風》複製

③尾形乾山《花籠図》複製

やきもの

染め・織りもの

素材と技法①油彩画②日本画③彫刻素材④螺鈿⑤版画



絵画③尾形乾山《花籠図》複製

貸出校 市内小学校3件、特別支援中学部1件、高校2件（同一学校は合わせて1件） 計6件 913人

	貸出校	学年	貸出ボックス	利用日	利用人数(人)
令和6年	福岡市立香椎東小学校	6年	絵画①	4月5日	126
	福岡海星女子学院高等学校	2年	絵画① 素材と技法①	5月14日	11
	福岡市立平尾小学校	5年	絵画①	6月26日	182
	福岡海星女子学院高等学校	1年	絵画② 素材と技法②	8月27日	30
	福岡市立南福岡特別支援学校中学部	1～3年	染め・織りもの	9月17日	4
令和7年	福岡市立松島小学校	6年	絵画② 素材と技法②	1月6日	160
	福岡県立香住丘高等学校	1年	絵画①②③	2月7日	400

企画担当：冨坂綾子

2 どこでも美術館アウトリーチ

当館の学芸員が館外へ出向き、ボックスを活用した美術鑑賞・体験プログラムを行っている。

対象：市内の院内学級、特別支援学校、離島および公共交通機関で来にくい地域の小中学校、公民館等の高齢者向け活動など。

プログラム内容：

絵画・彫刻①マルク・シャガール《空飛ぶアトラージュ》複製

②長谷川派《韃靼人狩獵図屏風》複製

③藤浩志《ヤセ犬》

やきもの

染め・織りもの

素材と技法①油彩画②日本画③彫刻素材④螺鈿⑤版画

ワークショップ



公民館での活動の様子(素材と技法①)

実施校・施設 市内学校5件(同一学校は合わせて1件)、公民館等11件 計16件 570人

	実施日	実施校・施設	学年	参加人数(人)	利用ボックス
令和6年	6月5日	福岡市立南福岡特別支援学校高等部中学部	1～3年	10	絵画①
	6月7日	田島公民館		17	素材と技法④
	6月12日、21日	福岡市立福岡中央特別支援学校中学部	1～3年	90	染め・織りもの
	6月25日	福岡市立若久特別支援学校中学部	1～3年	63	絵画①
	6月26日	箱崎公民館		10	素材と技法⑤
	6月28日	堤公民館		16	絵画② 素材と技法②
	7月3日	九大病院院内学級(福岡市立千代小学校)	1～6年	16	素材と技法④
	7月5日	堤丘公民館		25	素材と技法④
	7月8日、9日	福岡市立博多高等学園	1～3年	127	素材と技法⑤
	7月10日	舞鶴公民館		27	絵画①
	7月19日	田隈公民館		21	絵画①
	8月23日	長尾公民館		13	絵画①
	8月28日	福岡市立南福岡特別支援学校高等部	1～3年	46	染め・織りもの
	9月20日	福岡市立南福岡特別支援学校中学部	3年	39	染め・織りもの
令和7年	1月15日	筥松公民館		12	素材と技法①、絵画①
	1月22日	和白図書館		13	染め・織りもの
	1月24日	当仁公民館		14	染め・織りもの
	2月20日	東若久公民館		11	彫刻③

企画担当：冨坂綾子

スクールツアー

主に市内の小中学校を対象に、児童・生徒が美術に興味を持って美術作品を楽しく鑑賞し、美術館を身近な施設として体験してもらうためのプログラム。当館のギャラリーガイドボランティアが、児童・生徒に向けて、一緒に対話をしながら当館のコレクションを紹介するギャラリーツアーを実施している。

「対話型アート鑑賞」事業

福岡市では令和6年度から福岡市立の小学校・特別支援学校(小学部)が校外学習で福岡市美術館、福岡アジア美術館、福岡市博物館の3館を利用する場合に貸切バス代等の補助を行う「対話型アート鑑賞」事業を行っている。来館校へは当館ボランティアが対話型鑑賞で所蔵作品を紹介するスクールツアーを実施。

・「対話型アート鑑賞」事業によるスクールツアー [対象：福岡市立小学校・特別支援学校(小学部)]

実施数 団体数25件 児童1,465人 一般20人 引率122人 計1,607人

	来館日程	来館校	学年	児童生徒(人)	一般(人)	引率(人)	合計(人)
令和6年	6月18日(火)	福岡市立田島小学校特別支援学級	1～6	12	1	4	17
	6月20日(木)	福岡市立若宮小学校	3	111		6	117
	6月27日(木)	福岡市立弥永小学校	5	35	1	3	39
	6月28日(金)	福岡市立屋形原特別支援学校	5,6	37		16	53
	7月2日(火)	福岡市立日佐小学校	1	79		4	83
	7月2日(火)	福岡市立日佐小学校	5	77		4	81
	7月4日(木)	福岡市立生の松原特別支援学校	5	15		7	22
	7月5日(金)	福岡市立内野小学校特別支援学級	1～6	23	15	7	45
	7月9日(火)	福岡市立百道浜小学校特別支援学級	1～6	12		3	15
	7月12日(金)	福岡市立福浜小学校	3	40		3	43
	7月17日(水)	福岡市立志賀島小学校	1～6	16		6	22
	10月23日(水)	福岡市立今津小学校	6	33		3	36
	10月25日(金)	福岡市立有住小学校特別支援学級	1～6	9	3	5	17
	11月14日(木)	福岡市立愛宕浜小学校	3	49		3	52
	11月20日(水)	福岡市立日佐小学校	3	70		3	73
	11月22日(金)	福岡市立草ヶ江小学校	5	161		6	167
	12月5日(木)	福岡市立東光小学校	3	39		3	42
	12月10日(火)	福岡市立愛宕小学校	5	79		5	84
	12月10日(火)	福岡市立南当仁小学校	5	124		7	131
	12月12日(木)	福岡市立城浜小学校	4	18		2	20
令和7年	1月21日(火)	福岡市立草ヶ江小学校	3	136		6	142
	1月29日(水)	福岡市立脇山小学校	5	11		2	13
	1月31日(金)	福岡市立板付北小学校	5	48		3	51
	2月14日(金)	福岡市立飯原小学校	6	78		5	83
	3月4日(火)	福岡市立草ヶ江小学校	4	153		6	159

・福岡市立小学校の自由鑑賞 ※「対話型アート鑑賞」事業によるツアーを実施せず、自由鑑賞をした。

実施数 団体数5件 児童565人 引率28人 計593人

	来館日程	来館校	学年	児童生徒(人)	一般(人)	引率(人)	合計(人)
令和6年	11月21日(木)	福岡市立千代小学校	1,2	55		5	60
令和7年	1月16日(木)	福岡市立南当仁小学校	1	122		6	128
	2月12日(水)	福岡市立草ヶ江小学校	6	130		4	134
	3月6日(木)	福岡市立草ヶ江小学校	1	134		6	140
	3月11日(火)	福岡市立草ヶ江小学校	2	124		7	131

・その他のスクールツアー（市内中学校）

実施数 団体数3件 生徒177人 引率22人 計199人

来館日程		来館校	学年	児童生徒(人)	一般(人)	引率(人)	合計(人)
令和6年	7月11日(木)	福岡大学附属大濠中学校	1	165		8	173
令和7年	1月30日(木)	福岡市立長丘中学校	2	2		2	4
	2月8日(土)	福岡市立福岡きぼう中学校	1～3	10		12	22

・その他の学校団体（小学校・中学校・高校） ※小学校・中学校は市外を、高校は市内外を表記。

実施数 団体数6件 児童・生徒215人 一般2人 引率27人 計244人

来館日程		来館校	学年	児童生徒(人)	一般(人)	引率(人)	合計(人)
令和6年	7月24日(水)	福岡城西学園	1	32		3	35
	10月2日(水)	鹿児島市立中郡小学校	6	59	2	6	67
	11月1日(金)	糸島市立一貴山小学校	5,6	47		4	51
	11月19日(火)	久留米市立大城小学校	5	35		2	37
	12月11日(水)	福岡城西学園	1	6		2	8
令和7年	2月27日(木)	福岡市立特別支援学校博多高等学園	1	36		10	46

・その他の団体（大学等）

実施数 団体数7件 学生200人 一般2人 引率10人 計212人

来館日程		団体名	学生(人)	一般(人)	引率(人)	合計(人)
令和6年	6月14日(金)	Mesa Community College	16	2	2	20
	6月15日(土)	九州大学 博物館教育論	22		1	23
	6月29日(土)	福岡教育大学 美術教育研究ユニット	21		1	22
	7月13日(土)	福岡教育大学 美術入門	52		1	53
	11月24日(日)	西南学院大学博物館教育論	36		1	37
	12月8日(日)	九州大学 教育社会計画課外授業	6		1	7
	12月19日(木)	麻生建築&デザイン専門学校	47		3	50

総計 団体数46件 児童・生徒・学生2,622人 一般24人 引率209人 計2,855人

つきなみ講座

美術館の仕事と美術のさまざまな側面を知ってもらうため、月1回、美術館職員が自身の研究・業務内容、特定のテーマ等について話をする「つきなみ講座」。なお、特別展や企画展の関連事業としてミュージアムホールにて開催する回もあったため、開催場所についても記載する。

第1回 アメリカ美術とウォーホルのことなど

講師：山田 隆行
場所：レクチャールーム
開催日：令和6年4月13日(土) 15:00～16:00
聴講者数：38人

第2回 美術館と社会課題

講師：中山 喜一郎
場所：ミュージアムホール
開催日：令和6年5月18日(土) 14:30～16:00
聴講者数：68人

第3回 鉛を使った作品の保存—アンゼルム・キーファー《メランコリア》の事例

講師：渡抜 由季
場所：ミュージアムホール
開催日：令和6年6月15日(土) 15:00～16:00
聴講者数：27人

第4回 フカボリ美術鑑賞「夏休みこども美術館2024」の作品を見る

講師：高田 瑠美
場所：レクチャールーム
開催日：令和6年7月20日(土) 15:00～16:00
聴講者数：19人

第5回 アートは街にどう作用する？

講師：忠 あゆみ
場所：レクチャールーム
開催日：令和6年8月17日(土) 15:00～16:00
聴講者数：45人

第6回 桃山時代の和物茶碗は、なぜ歪んでいるのか？

講師：久保山 炎((一財)田中丸コレクション 学芸員)
開催日：令和6年9月21日(土・祝) 15:00～16:00
場所：レクチャールーム
聴講者数：55人

第7回 アジア×現代美術×福岡—伝説のFukuoka, 1990-1994

講師：岩永 悦子、宮本 初音(ART BASE 88[福岡]代表)
開催日：令和6年10月19日(土) 15:00～17:00
場所：ミュージアムホール
聴講者数：40人

第8回 博多のみほとけ

講師：宮田 太樹
場所：ミュージアムホール
開催日：令和6年11月9日(土) 15:00～16:00
聴講者数：127人

第9回 吉村観阿展の見どころ紹介

講師：後藤 恒
場所：レクチャールーム
開催日：令和6年12月21日(土) 15:00～16:00
聴講者数：56人

第10回 台湾を舞台にした美術

講師：ラワンチャイクン 寿子
場所：レクチャールーム
開催日：令和7年1月25日(土) 15:00～16:00
聴講者数：23人

第11回 モナ・ハトゥム《+とー》の設置と通訳翻訳その他諸々

講師：太田 早耶
場所：レクチャールーム
開催日：令和7年2月15日(土) 15:00～16:00
聴講者数：39人

第12回 教育普及担当学芸員によるオーストラリアの美術館レポート

講師：崎田 明香
場所：レクチャールーム
開催日：令和7年3月15日(土) 15:00～16:00
聴講者数：29人

聴講者数 計566人

福岡ミュージアムウィーク2024

博物館・美術館の社会的役割を広く多くの方に知ってもらうために、ICOM(国際博物館会議)により定められた「国際博物館の日」(5月18日)。これを記念して、福岡市内の博物館・美術館等が連携し、様々なイベントを通して「出会いの場」「知識の場」「発見の場」である博物館・美術館の魅力を味わってもらうことを目的とした事業。本年度は18施設が参加し、参加館を巡るスタンプラリーを実施した。また、期間中はコレクション展示室の観覧料を無料とした。

連 携 館：福岡市博物館、福岡市美術館、福岡アジア美術館、福岡県立美術館、「博多町家」ふるさと館、はかた伝統工芸館、王貞治ベースボールミュージアム Supported by DREAM ORDER、九州大学総合研究博物館、九州産業大学美術館、西南学院大学博物館、能古博物館、福岡市動植物園、福岡市文学館、博多の食と文化の博物館ハクハク、高取焼本家味楽窯美術館、福岡女子大学美術館、福岡市科学館、チームラボフォレスト 福岡-SBI証券

期 間：令和6年5月18日(土)～5月26日(日)

■つきなみ講座スペシャル「美術館と社会課題」

日 時：令和6年5月18日(土)14:30～16:00

場 所：ミュージアムホール

参 加 者：68人

講 師：中山喜一郎(当館総館長)

※毎月1回実施する「つきなみ講座」をスペシャルとしてミュージアムウィークの関連企画として実施した。「つきなみ講座」はp.26を参照。

■福岡ミュージアムウィーク2024記念講演会 「第2回福岡アートアワード 受賞作家トークセッション」

第2回福岡アートアワードの受賞作家であるソー・ソウエン氏、イ・ヒョンジョン氏、山本聖子氏の3名によるトークセッションを開催。これまでの活動や受賞作品、今後の活動や作品について3名が話をした。

日 時：令和6年5月19日(日)14:00～16:00

場 所：ミュージアムホール

参 加 者：59人

講 師：ソー・ソウエン、イ・ヒョンジョン、山本聖子



福岡ミュージアムウィーク2024記念講演会の様子

■ボランティアによるギャラリーツアー

当館所蔵作品3点を、参加者と対話をしながら鑑賞するツアー。ギャラリーガイドボランティアが実施。

日 時：令和6年5月18日(土)～26日(日)11:00～、14:00～(40分程度)※5月20日(月)は除く

参 加 費：無料

参加人数：45人

■初めてのベビーカーツアー

小さな子どもとその保護者を対象に、展示中の所蔵品を鑑賞し、館内をお散歩するツアー。

日 時：令和6年5月22日(水)、23日(木)10:00～10:40

参 加 費：無料

参加人数：子ども9人 保護者10人

■建築ツアー

前川國男設計の福岡市美術館の建築を鑑賞するツアーを、当館総館長・中山喜一郎の案内で実施した。

日 時：令和6年5月25日(土)10:30～12:00

参 加 費：無料

参加人数：18人

企画担当：崎田明香

夏休みこども美術館2024

夏休みこども美術館2024「道、その先には何がある？」

当館で毎夏開催している教育普及事業「夏休みこども美術館」。令和6年度は、道をテーマに作品を紹介した。また、展覧会に関連して、3つのプログラムを実施した。「夏休みこどもとしょかん」ではこどもギャラリーの展示に関連する図書を展示室で紹介した。

会 期：令和6年6月13日(木)～ 9月1日(日)

印 刷 物：チラシA4

■こどもギャラリー「道、その先には何がある？」

内 容：「道」をテーマに当館所蔵の近現代美術作品をコレクション展示室Aにて展示した。展示構成として3つの章（「ちかくの道、とおくの道」、「いっぽ、には、さんぽ 歩いてみる」、「道、その先には何がある？」）を設け、子ども向けに14点の作品を展示した。展示室には、通常の展示目録のほか、子どもに向けた章パネル、作品キャプション、解説等を設置した。

期 間：令和6年6月13日(木)～ 9月1日(日)

作品点数：14点

会 場：近現代美術室A

中学生以下の入場者数：3,743人



こどもギャラリー「道、その先には何がある？」展示の様子

【関連プログラム】

■未来にむかって歩くなら?“わたしのくつ”をつくってみよう。

内 容：展示室で靴が登場する作品を見たあとに、未来に履いていく靴をイメージして、紙や布など色々な素材をつかって靴をつくるワークショップを実施した。

日 時：①7月28日(日)／②8月4日(日)各13:30～15:30

対 象：小学生～中学生とその保護者

場 所：展示室及びアートスタジオ

参加人数：計41人(7月28日・20人／8月4日・21人)

■ギャラリーツアーforキッズ!

内 容：子どもを対象に実施。当館のギャラリーガイドボランティアと一緒に「道、その先には何がある？」展を、対話しながら楽しく鑑賞するツアー。

日 時：8月17日(土)、18日(日)、20日(火)～23日(金)各日10:30～11:10

対 象：小学生～中学生

参加人数：計26人

「夏休みこどもとしょかん」についてはp.32を参照。

企画担当：高田瑠美

ファミリーDAY

若い世代の家族に向け、開館記念日の周知と、家族で体験する美術・美術館の楽しさ、面白さを知ってもらうために、11月3日の開館記念日の前後をファミリーDAYとし、平成25年度より開催している事業。令和6年度は開催期間を開館記念日を含む2日間とした。

日時：令和6年11月2日(土)～3日(日・祝)10:00～15:00

延べ参加人数：1,710人(子ども905人、大人805人)

ボランティアスタッフ：館内ボランティア16人 学生ボランティア38人

博物館実習生7人

印刷物：チラシA4



「知る、刷る、シルクスクリーン!」の様子

講師名のないものは、美術館職員とボランティアが実施した。

■かいとうキッズ 美術館の謎をとけ!

内容：コレクション展を鑑賞して、展示作品に関するクイズに回答していくプログラム。

日時：令和6年11月2日(土)、3日(日・祝)10:00～15:00

場所：(受付)2階ロビー、(会場)コレクション展示室

対象：5歳くらい～

参加人数：646人

内容：キッズスペース「森のたね」を制作したアーティスト・オーギカナエ氏制作の種の形をしたボックスから、さまざまな素材を取り出して「森のなかま」を作るワークショップ。

日時：令和6年11月3日(日・祝)10:00～15:00

場所：キッズスペース「森のたね」

対象：未就学児とその保護者

参加人数：238人

■お面をつくって作品にへんしん!

内容：美術館の作品をモチーフにしためりえをして、お面をつくるプログラム。

日時：令和6年11月2日(土)、3日(日・祝)10:00～15:00

場所：1階ロビー

対象：3歳くらい～

参加人数：194人(11月2日の人数)

■知る、刷る、シルクスクリーン!

内容：版画のしくみや木版、銅版、シルクスクリーンなど各版画技法の特徴を学んだ後、展示中の作品から選んだ絵をシルクスクリーン技法を用いて布バックにプリントした。制作後、展示室にモチーフとなった作品を探しに行くワークショップを実施。

日時：令和6年11月3日(日・祝)

①10:00～11:00②12:30～13:30

③14:00～15:00

講師：上野真歩(福岡教育大学助教)

場所：アートスタジオ、コレクション展示室

対象：小中学生とその保護者(事前申込制)

参加人数：156人

■つくって、あそぼう!コブウシくんとおすも うさん／お面をつくって作品にへんしん!

内容：コブウシ土偶など当館の所蔵品2点をモチーフにした、手足を動かして遊ぶ紙製の人形を制作するワークショップ。※お面をつくって作品にへんしん!は11月2日と同様のプログラムだが「つくって、あそぼう!」と同じ会場で実施したため、参加人数は合計としてカウントしている。)

日時：令和6年11月3日(日・祝)10:00～15:00

場所：1階ロビー

対象：3歳くらい～

参加人数：476人

■初めてのベビーカーツアー

内容：小さな子どもとその保護者を対象に、展示中の所蔵品を鑑賞し、館内をお散歩するツアー。

日時：令和6年11月2日(土)

①9:30～10:10 ②10:40～11:20

場所：コレクション展示室など館内各所

対象：1歳半くらいまでの子どもとその保護者(事前申込制)

※大雨のため、同プログラムは中止。

企画担当：崎田明香

■ミニミニワークショップ

バリアフリーギャラリーツアー

福岡市美術館では、教育普及活動の方針として「アートと生きる」を掲げ、その具体的な活動として「アクセシビリティの向上」をうたっている。「多様な背景を持った人が集う場である美術館で、物理的のみならず心理的にもすべての人が安心して学び、過ごせるような空間づくりを目指す」という目的に従い、身体的な障がいのある人たちもそうでない人たちも、親しく、安心して、より日常的に、当館のコレクション展を楽しめるよう、令和2年度よりバリアフリーをうたったギャラリーツアーを実施している。本年度は、視覚障がい者・聴覚障がい者・車いす利用者向けのコレクションのギャラリーガイドツアーを例年通り行った。



視覚障がい者のための おしゃべりとてざわりのツアーの様子

■視覚障がい者のための おしゃべりとてざわりのツアー

目の見える人、見えない人、見えにくい人が一緒になり、グループごとに作品について話し合いながら鑑賞を行った。また令和6年度に新規に設置した立体作品、モナ・ハトゥム《+とー》に使われているのと同じ素材(砂)に触れながら同作品を鑑賞した。展示室での鑑賞後、アートスタジオにて「どこでも美術館」の教材の《ヤセ犬》(アーティスト、藤浩志による美術作品)に触れて鑑賞、制作体験を行った。なお、当館ボランティアが本プログラムをサポートした。

日 時：令和6年11月30日(土) 14:00～16:00

講 師：石田陽介・濱田庄司・松尾さち(ギャラリーコンパ)

参加者数：9人(うち晴眼者4人)、(介助者2人)

■聴覚障がい者のための 目で聴くツアー

手話通訳者を介して、対話をしながら当館のコレクションを鑑賞した。また、手話が苦手な参加者がいる場合を想定し、当館職員が筆記により鑑賞補助を行う用意をした。当日は当館ボランティアが本プログラムをサポートした。

日 時：令和6年12月1日(日) 10:00～11:30

参加者数：5人

協 力：福岡市聴覚障がい者情報センター

■車いす利用者のためのゆったり車いす鑑賞ツアー

車いす利用者を対象としたギャラリーツアー。当事者と介助者と一緒に、学芸員が当館コレクションを対話をしながら紹介した。

日 時：令和6年2月15日(土) 10:00～12:00

参加者数：車いす利用者1人(介助者1人)

全て参加無料

企画担当：高田瑠美

第10回 みんなでいきヨウヨウ講座「みる・さわる・つくる彫刻」

内容：シニア世代の文化活動をサポートする教育活動のひとつとして、平成25年度より開始。65歳以上の方を対象に、作品鑑賞やものづくり、身体表現など、アートを通して心の充実を実感してもらうことを目指している。今年度は「みんなで」いきヨウヨウ講座と題し、属性による対象の縛りをゆるめ、65歳以上のシニア世代と、そのほかの人が一緒に活動できる機会とした。
令和6年度は彫刻家の片山博詞氏を講師に迎え、所蔵品を鑑賞したあと、触覚をたよりに粘土で彫刻作品を制作する活動を実施した。

日時：令和7年3月20日(木・祝) 13:30～15:30

講師：片山博詞(彫刻家)

場所：アートスタジオ、2階ロビー

参加人数：27人(65歳以上18人／64歳以下9人)



企画担当：崎田明香

博物館実習

博物館法による学芸員資格取得のための実習を大学からの依頼により毎年実施している。令和6年度は下記大学の7人を受け入れた。実習期間は令和6年4月23日から11月30日のうちの10日間。

■九州産業大学	国際文化学部 国際文化学科	1人
■佐賀大学	芸術地域デザイン学部 地域デザインコース	1人
■西南学院大学	国際文化学部 国際文化学科	1人
■筑紫女学園大学	文学部 日本語・日本文学科	1人
■福岡大学	人文学部 文化学科	2人
■八洲学園大学	生涯学習学部 生涯学習学科	1人

職場体験学習

学校教育の一環として職場体験学習が行われており、美術館では本年度6校を受け入れて、コレクション展示の受付、監視等の体験学習を行った。

令和6年6月26日(水)・27日(木)	福岡県立福岡聴覚特別支援学校	1人
令和6年7月24日(水)	福岡県立福岡工業高校	3人
令和6年9月3日(火)	福岡市立春吉中学校	4人
令和6年9月4日(水)・5日(木)	福岡市立舞鶴中学校	4人
令和6年9月25日(水)	福岡市立長尾中学校	4人
令和6年9月26日(木)	福岡市立当仁中学校	10人

図書企画

■美術情報コーナー図書特集

美術情報コーナーの書棚の一部に当館開催の展覧会に関する資料の特集を行い、来館者に美術に関する知識や興味をより深めてもらえるよう、資料を通しての普及啓蒙活動を行った。

1.コレクション展関連図書特集

コレクション展示室での各展示に関連する図書を特集した。

2.特別展関連図書特集

- ・令和6年4月20日(土)～6月30日(日)「ADAPTATION-KYNE」関連
- ・令和6年7月13日(土)～9月8日(日)「キース・ヘリング展 アートをストリートへ」関連
- ・令和6年10月26日(土)～12月8日(日)「博多のみほとけ」関連

■夏休みこどもとしゃかん

会期：令和6年6月13日(木)～9月1日(日)

会場：近現代美術室A

内容：夏休みこども美術館2024「道、その先には何がある？」に関連して、美術作品の鑑賞のヒントが書かれているものや展示作品に関連するものなど、美術に関心を持ったり理解を深めてもらえたりするような児童向けの絵本・美術書など20冊を特集した。

企画担当：中務美紀

ボランティア活動

当館では、昭和51年にボランティアを募集し、昭和54年の美術館開館と同時に活動を開始した。現在、ギャラリーガイドボランティア、新聞情報ボランティア、図書整理ボランティア、美術家情報整理ボランティアが活動している。

令和6年度の登録人数

ギャラリーガイド	新聞情報	図書整理	美術家情報整理	合計(人)
69	38	25	11	143

■総会

日時：令和6年5月28日(火) 10:30～12:00 会場：ミュージアムホール 参加人数：43人

■10年任期ボランティア感謝状贈呈式

日時：令和6年5月28日(火) 13:00～14:00 会場：ミュージアムホール 対象ボランティア：60人

■館外研修

日時：令和6年6月9日(日) 13:00～15:00 訪問先：久留米市美術館 参加人数：21人

■ボランティア交流会

日時：令和7年1月14日(火) 会場：アートスタジオ 参加人数：47人(うちOB 7人)

■新規ボランティア募集

5年に一度実施している新規ボランティア募集について、今年度はギャラリーガイドボランティア50人程度、新聞情報ボランティア25人程度、美術家情報整理ボランティア5人程度を募集した。

募集期間：令和6年7月16日(火)～8月18日(日) 応募人数：145人

■新規ボランティア研修

面接を通過した方を対象に、共通研修を5回実施した。

- ①令和6年10月6日(日) 10:00～15:30【補講】10月9日(水)
- ②令和6年10月12日(土) 10:00～15:30【補講】10月17日(木)
- ③令和6年10月20日(日) 10:00～15:00【補講】10月23日(水)
- ④令和6年12月14日(土) 10:00～15:00【補講】12月19日(木)
- ⑤令和6年12月21日(土) 10:00～12:30【補講】12月24日(火)

研修修了者：114人(うち再応募48人)

■「対話型アート鑑賞」事業 ボランティア研修

令和6年度より開始した「対話型アート鑑賞」事業(詳細はスクールツアーp.24)に関連して、ボランティアを対象とした外部講師による研修を行った。

研修内容	日時	講師	会場	対象	参加人数
対話型鑑賞実践研修1 (3回連続講座)	令和6年4月13日(土) 10:30～12:40	春日美由紀 (Art&Communication Lab.うらとまりん代表)	ミュージアムホール	ギャラリーガイド ボランティア (新規ボランティアは除く)	62人
対話型鑑賞実践研修2	令和6年5月12日(日) 10:30～12:40		アートスタジオ		62人
対話型鑑賞実践研修3	令和6年6月22日(土) 10:30～12:40		アートスタジオ		52人
「きく力」研修	令和6年8月25日(日) 10:00～15:00	西村佳哲 (リビングワールド代表／ブ ランニング・ディレクター)	福岡アジア美術館 あじびホール	ギャラリーガイド ボランティア	51人
やさしい日本語研修	令和6年12月21日(土) 10:00～11:30	高柳香代 (《公財》宮崎県国際交流 協会 地域日本語教育事 業担当)	ミュージアムホール	福岡市美術館 ボランティア	55人

ギャラリーガイドボランティア

[活動内容]

■ギャラリーツアー

開館日の午前11時と午後2時に40分程度、当館の所蔵作品を紹介するギャラリーツアーを実施している。ボランティアは、コレクション展の展示作品から3作品を選び、対話型で作品鑑賞をする活動を行っている。参加は無料。

■団体向けツアー

ギャラリーツアー以外に、申込みをいただいた団体へのギャラリーツアーを行っている。参加団体は以下の通り。

実施数 団体数14件 児童・生徒78人 一般136人 引率33人 総計247人

	来館日程	団体名	児童・生徒(人)	一般(人)	引率(人)	合計(人)
令和6年	4月27日(土)	自主夜間中学 福岡よみかき教室	11		17	28
	6月23日(日)	城南区市民の皆さん		8		8
	7月7日(日)	アートスクールひみつきち	23		9	32
	8月21日(水)	新日本婦人の会		11		11
	8月23日(金)	Kids Duo 梅光園	19		3	22
	9月6日(金)	福津市郷育カレッジ		17		17
	10月16日(水)	福岡市職員労働組合		12		12
	10月18日(金)	堤丘公民館		19		19
	10月30日(水)	城南公民館いきいき学級		15		15
	11月9日(土)	アートアトリエArte-mico	18	11		29
	12月13日(金)	中部経済同友会		17	1	18
令和7年	1月18日(土)	福岡小学校図画工作教育研究会		21		21
	2月18日(火)	新日本婦人の会		5		5
	2月21日(金)	森のフリースクール木立	7		3	10

■スクールツアー

学校団体を対象にギャラリーツアーを行っている。詳細は「スクールツアー」の項目(p.24)を参照のこと。

■新規ボランティア グループ研修

新規ギャラリーガイドボランティアを対象に、ツアーの方法等について、以下の日程で研修を行った。

参加人数：82人(うち再応募48人)

第1回 令和7年1月19日(日)、1月22日(水) 13:00～16:00

第2回 令和7年1月26日(日)、1月29日(水) 13:00～16:00

第3回 令和7年2月2日(日)、2月13日(木) 10:00～12:30

第4回 令和7年2月22日(土) ①10:00～12:30 ②14:00～16:30

令和7年2月26日(水) ①10:00～12:30 ②14:00～16:30

※第1回～3回はいずれかの日程に参加。第4回は各日程の①～②のいずれか1回に参加。

また、4回のグループ研修後、3月1日(土)～19日(水)にかけて、1人ずつ本番と同様にギャラリーガイドツアーのリハーサルを実施した。

新聞情報ボランティア

【活動内容】

日曜日・金曜日を除く毎日、曜日毎に担当する新聞を決め、新聞の切り抜き及びファイル作業などを行う。月に1回合同作業日を設け、各グループ間での情報交換・意志の統一を図る。死亡記事の整理作業は、月末に各曜日グループ持ち回りで行う。

月曜日グループ：毎日新聞
火曜日グループ：読売新聞
水曜日グループ：西日本新聞
木曜日グループ：朝日新聞
土曜日グループ：日経新聞

■新規ボランティア グループ研修

新規及び再応募の新聞情報ボランティアを対象に、切り抜きや保存の方法について下記の通り研修を実施した。

参加人数：30人（新規20人、再応募10人）

第1回 令和7年2月16日（日）14:00～16:00

第2回 令和7年2月20日（木）14:00～16:00

図書整理ボランティア

【活動内容】

基本的に火曜日から土曜日までの各曜日午前と午後の班に分かれ、資料整理業務に関する作業を行った。

■作家資料整理

作家に関するパンフレット資料への受付印の押印、資料保存用の袋および検索用カードを作成する。
古くなった資料保存用の袋を新しいものに作り替える。

■広報誌整理

他機関発行の広報誌を綴じる作業、および広報誌を綴じておくファイルを作成する。

■雑誌記事整理

雑誌に掲載されている美術関係の記事内容を種別する。
福岡市美術館の所蔵品、施設、展覧会に関する雑誌掲載記事索引ファイルを作成する。

■紀要・年報類の受入

ラベルに該当する機関コードを記入し、資料に貼付する。
資料を書架に配架する。

■パソコン入力

図録に掲載されている作家名をパソコンに入力する。また、入力された情報が正しいかどうかチェックする。

■新規受け入れ図書の点検・配架

新しく受け入れる図書の装備（登録番号、ラベル、蔵書印）を点検後、所定の位置に配架する。

■書架整理

配架している図書の場所を調整、移動、整理する。

■蔵書点検

図書が書架の正しい場所にあるか、紛失・破損等がないかを点検する。

美術家情報整理ボランティア

【活動内容】

- ①美術家による活動についてのDM(ダイレクトメール)を内容別に分類し、作家名、展覧会(イベント)名、会期、会場名等の基本情報をデータベース化している。令和7年3月31日現在で26,887件のデータを入力済み。
- ②データ入力の済んだDMを整理し、作家名別、会場別に保管する。

【活動日】

月～金曜日。各曜日で午前と午後の各班にて作業を行う。

■令和6年度 共同作業日

令和6年4月19日(金) 10:30～
令和6年5月13日(月) 10:30～
令和6年6月18日(火) 13:30～
令和6年7月18日(木) 13:30～
令和6年9月30日(月) 13:30～
令和6年10月16日(水) 13:30～
令和6年11月15日(金) 13:30～
令和6年12月2日(月) 10:30～
令和7年1月29日(水) 10:30～
令和7年2月18日(火) 13:30～
令和7年3月10日(月) 10:30～

■新規ボランティア グループ研修

新規の美術家情報整理ボランティアに向けて、データベースへの入力作業および資料の整理分類保管についての研修を下記の日程で実施した。

参加人数：9人

第1回 令和7年1月30日(木) 10:30～12:00
第2回 令和7年2月 6日(木) 10:30～12:00
第3回 令和7年2月13日(木) 10:30～12:00

出版物

■福岡市美術館活動の記録

名称	規格	頁数	発行日
令和5年度 福岡市美術館活動の記録	A4	73	令和6年12月25日

■展覧会図録

名称	規格	頁数	発行日
あらがう	A4	32	令和6年9月
生誕260年 世を観る眼 白酔庵・吉村観阿	B5	128	令和6年11月27日

■コレクション展リーフレット(古美術)

No.	展覧会名	規格	頁数	会場	発行日
解説第251号	新収蔵品展	B5	6	古美術企画展示室	令和6年4月23日
作品リスト	春の名品展	B5	2	松永記念館室	令和6年3月19日
作品リスト	源氏物語の世界	B5	2	古美術企画展示室	令和6年6月18日
解説第252号	表具のキホン	B5	4	松永記念館室	令和6年6月4日
作品リストD版	東光院のみほとけ	B5	2	東光院仏教美術室	令和6年7月25日
解説第11号	田中丸コレクション 華やかなる九州の桃山茶陶	B5	6	古美術企画展示室	令和6年8月6日
作品リスト	秋の名品展	B5	2	松永記念館室	令和6年8月20日
作品リスト	僊厓展	B5	4	古美術企画展示室	令和6年10月1日
解説第253号	松永耳庵と福岡ゆかりの品々	B5	4	松永記念館室	令和6年10月29日
作品リストE版	東光院のみほとけ	B5	2	東光院仏教美術室	令和6年11月26日
作品リスト	染と織の美術	B5	4	古美術企画展示室	令和7年1月22日
作品リスト	高麗茶碗と和物茶碗	B5	2	松永記念館室	令和7年1月28日
作品リストF版	東光院のみほとけ	B5	2	東光院仏教美術室	令和7年2月13日
作品リスト	華やぐ家具調度	B5	2	古美術企画展示室	令和7年3月19日
作品リスト	桜花爛漫	B5	2	古美術企画展示室	令和7年3月19日
作品リスト	春の名品展	B5	2	松永記念館室	令和7年3月25日

■コレクション展リーフレット(近現代美術)

No.	展覧会名	規格	頁数	会場	発行日
作品リスト	コレクションハイライト(令和5年度収蔵作品追記版)	B5	4	近現代美術室A・C	令和6年3月17日
作品リスト	新収蔵品展	B5	2	近現代美術室B	令和6年3月25日
作品リスト	コレクションハイライト	B5	4	近現代美術室A・C	令和6年6月8日
作品リスト	夏休みこども美術館2024 道、その先には何がある？	B5	2	近現代美術室A	令和6年6月12日
解説第316号	野見山暁治のしごと	B5	4	近現代美術室B	令和6年6月12日
作品リスト	水彩って何？	B5	2	近現代美術室A	令和6年9月11日
作品リスト	雪景色	B5	2	近現代美術室A	令和6年12月6日
解説第318号	奈良原一高「ヴェネツィアの夜」「ジャパネスク」	B5	4	近現代美術室B	令和6年12月13日
作品リスト	新収蔵品展	B5	2	近現代美術室A	令和7年3月24日

■研究紀要

名称	規格	頁数	発行日
福岡市美術館 研究紀要 第13号	A4	48	令和7年3月14日

■福岡市美術館 季刊誌 エスプラナード

No.	内容	規格	頁数	発行日
215	「第2回福岡アートアワード」の受賞作家・作品が決定しました!／所蔵品紹介「源氏物語 図屏風」[宮田太樹]／なぜ私たちはKYNEに惹かれるのか?[山木裕子]／プレゼンバトル古美術編レポート!／福岡市美術館ぶらり、さんぽ。[渡抜由季]／美術館スケジュール／LECTUREつきなみ講座／MUSEUM SHOP／ふくおか応援寄付／わたすclub／利用案内	B5 変形	12	令和6年4月1日
216	所蔵品紹介「無題」[山田隆行]／3つのポイントで振り返るキース・ヘリングの世界と魅力[山田隆行]／なぜこの作品が福岡市美術館へ?[忠あゆみ]／今日はなにに美術館へ?来館者にインタビューしました／夏休みこども美術館2024「道、その先には何がある?」[高田瑠美]／美術館スケジュール／LECTUREつきなみ講座／RESTAURANT & CAFÉ／ふくおか応援寄付／わたすclub／利用案内	B5 変形	12	令和6年7月1日
217	所蔵品紹介「章魚図」[中山喜一郎]／博多のほとけさまに会いに行こう[宮田太樹]／企画展 生誕260年世を観る眼 白酔庵・吉村観阿[後藤恒]／企画展あらがう[山木裕子]／はじめまして!様々な人にアートを届ける／美術館スケジュール／LECTUREつきなみ講座／MUSEUM SHOP／ふくおか応援寄付／わたすclub／利用案内	B5 変形	12	令和6年10月1日
218	所蔵品紹介 禅 坐禅・境内(石川県能登)「ジャパネスク」より[高山環]／モナ・ハトゥム氏の作品が、恒久設置されました[ラウチヤクン寿子]／プレゼンバトルリターンズ!近現代美術編／田中千智「生きている壁画」のこれまで・これから[忠あゆみ]／美術館スケジュール／LECTUREつきなみ講座／RESTAURANT & CAFÉ／ふくおか応援寄付／わたすclub／利用案内	B5 変形	12	令和7年1月1日

連携企画

■やさしい日本語ツアー

内 容：当館の多文化共生プログラムとして、福岡よかトピア国際交流財団と共催し、福岡市内に住む日本語を母語としない親子を対象に、当館のコレクション展を「やさしい日本語」で対話をしながら鑑賞するツアーを実施した。また、参加者には当館で制作した「やさしい日本語ガイドブック」を配布した。

日 時：令和6年8月18日(日)、11月17日(日)①10:30～12:00 ②13:30～15:00

会 場：コレクション展示室、アートスタジオ

対 象：福岡市内在住の日本語を母語としない親子 各回3組

参加人数：17人

共 催：福岡市美術館、福岡よかトピア国際交流財団

連携・協力事業

■令和6年度 文化庁 大学における文化芸術推進事業 (博物館健康ステーション／ミュージアムカフェ事業)への参加

内 容：九州産業大学が主体となった標記事業に実行委員会委員として参加した。具体的活動として、博物館リラックス効果に関する「博物館浴」実証実験(令和7年1月11日実施)に事業評価者として参加、視察した。また、博物館リンクワーカー人材養成講座(オンライン事業)、事業関連シンポジウムに関する実行委員会に参加した。

日 時：令和7年1月11日(土)10:00～15:30

会 場：九州国立博物館、文化交流展示室・研修室

参加人数：16人

主 催：九州産業大学

■令和6年度福岡市小学校図画工作教育研究会 第6回定例会

内 容：福岡市小学校図画工作教育研究会の定例会において、福岡市美術館で実施している対話型鑑賞についての講演を行った。

日 時：令和7年1月18日(土)14:30～15:10

会 場：福岡市美術館

講演名：「対話型アート鑑賞の実際」

講師：崎田明香(福岡市美術館)

主 催：福岡市小学校図画工作教育研究会

■2024韓国国立中央博物館 Senior Fellowship Program Academic Colloquium 「15～16世紀の東アジアと朝鮮前期の美術」

内 容：韓国国立中央博物館が主体となって実施している韓国、日本の若手研究者間の人的ネットワーク形成を目的とした学術コロキウム。同コロキウムにおいて当館学芸員が所蔵品を中心に韓国絵画史についての発表を行った。

日 時：令和6年8月5日(月)～8月8日(木)

会 場：韓国国立中央博物館

講演名：朝鮮前期山水画の様式変遷

発表者：宮田太樹(福岡市美術館)

館外調査

福岡市美術館では、諸事業の充実を図りその効果を高めるため、たゆまぬ調査研究活動に努めている。以下は令和6年度に館外にておこなった主な調査研究記録である。

日時	目的	訪問先	日数	担当	関連する事業
令和6年12月2日～12月10日	オーストラリアの美術館の教育活動について現地で学び、今後の所属館での活動に活かすこと	【ブリスベン(オーストラリア)】Queensland Art Gallery/Gallery of Modern Art, Institute of Modern Art (IMA), The Renshaw, Griffith University Art Museum, University of Queensland Art Museum, Milani Gallery 【シドニー】Art Gallery of New South Wales, Parramatta Artist Studios, PARI gallery, Artspace, Museum of Contemporary Art Australia	9日間	嶋田明香	令和6年度「NCARスタディ・ツアー(オーストラリア)」による派遣
令和7年2月26日	収蔵品情報管理・共有システムに関する調査および魅せる収蔵庫視察	東京芸術大学 大学美術館 取手館	1日間	渡抜由季	科学研究費 挑戦的研究(萌芽)「近現代アートの保存・継承に向けた収蔵品情報管理・共有システムの構築」(研究代表者: 田中真奈子)
令和7年3月7日～3月9日	科学研究に関わる仏像調査	個人宅(宮崎県高鍋町)、三弓堂(宮崎県国富町)、千足神社(宮崎県都城市)	3日間	宮田太樹	科学研究費 基盤研究(A)「作品誌の観点による半島由来仏教文物の包括的研究—彫刻・絵画・写経を中心に—」(研究代表者: 井手誠之輔)

紀要の発行

令和6年度、福岡市美術館において「福岡市美術館 研究紀要 第13号」を発行した。
内容は以下の通りである。

題目	執筆者
満州の甲斐巳八郎 雑誌『協和』掲載挿絵・執筆記事 ⑦	中山喜一郎
美術館と中学校美術部の長期プロジェクトから考える美術館の学び	嶋田明香
吉田博《(題不詳)》保存修復処置報告 —美術館内環境を利用した変形修正の可能性—	渡抜由季
『雲中庵茶会記』翻刻稿 ⑨	後藤恒

美術資料

令和6年度は近現代美術作品41点、古美術作品5件を収集した。

近現代美術

所蔵品番号順

寄贈(31点)

No.	種別	所蔵品番号	作者名	作品名	制作年	技法(日)	サイズ
1	油彩等	1-A-768	尾花 成春	炭坑風景	1956	油彩・画布	65.5×80.5
2	油彩等	1-A-769	尾花 成春	街より	1956	油彩・画布	100.4×73.0
3	油彩等	1-A-770	尾花 成春	労働者	1957	油彩・画布	91.5×116.2
4	油彩等	1-A-771	尾花 成春	野(筑後川放水路)	1974	油彩・画布	97.0×130.3
5	油彩等	1-A-772	貝島 福通	(題不詳)	2010頃	油性ペン、アクリル・画布	97.0×153.8
6	油彩等	1-A-775	田中 千智	意識の旅	2014	油彩、アクリル・画布	218.2×291.0
7	油彩等	1-A-777	多々羅 義雄	台湾風景(新竹東門城)	1934年頃	油彩・画布	47.0×58.0
8	素描	1-D-477	大浦 ころこ	「やわらかな圧力」のデッサン (温度・触感・痛み)	2010	木炭、鉛筆・紙	52.7×78.9
9	素描	1-D-478	大浦 ころこ	「やわらかな圧力」のデッサン (起き上がる)	2010	木炭、鉛筆・紙	56.3×77.1
10	素描	1-D-479	大浦 ころこ	「やわらかな圧力」のデッサン (引っ張って起きる)	2010	木炭、鉛筆・紙	54.9×75.0
11	素描	1-D-480	大浦 ころこ	「やわらかな圧力」のデッサン7	2010	木炭、鉛筆・紙	50.4×66.2
12	素描	1-D-481	大浦 ころこ	「やわらかな圧力」のデッサン12	2010	木炭、鉛筆・紙	50.0×65.0
13	素描	1-D-482	大浦 ころこ	「やわらかな圧力」のデッサン13	2010	木炭、鉛筆・紙	49.9×65.1
14	素描	1-D-483	大浦 ころこ	「やわらかな圧力」のデッサン14	2010	木炭、鉛筆・紙	50.7×66.3
15	素描	1-D-484	大浦 ころこ	「やわらかな圧力」のデッサン (樹の下で眠る)	2010	木炭、鉛筆・紙	55.0×79.0
16	写真	1-F-787	高橋 渡	(題不詳)	1930年代-1940年代	ゼラチンシルバープリント	28.9×24.1
17	写真	1-F-788	高橋 渡	(題不詳)	1930年代-1940年代	ゼラチンシルバープリント	29.6×24.7
18	写真	1-F-789	高橋 渡	(題不詳)	1930年代-1940年代	ゼラチンシルバープリント	28.4×24.7
19	写真	1-F-790	高橋 渡	(題不詳)	1930年代-1940年代	ゼラチンシルバープリント	29.9×24.4
20	写真	1-F-791	高橋 渡	(題不詳)	1930年代-1940年代	ゼラチンシルバープリント	24.0×29.4
21	写真	1-F-792	高橋 渡	(題不詳)	1930年代-1940年代	ゼラチンシルバープリント	25.1×29.0
22	写真	1-F-793	高橋 渡	(題不詳)	1930年代-1940年代	ゼラチンシルバープリント	28.6×24.7
23	写真	1-F-794	高橋 渡	(題不詳)	1930年代-1940年代	ゼラチンシルバープリント	25.1×26.5
24	写真	1-F-795	高橋 渡	公設市場	1937	ゼラチンシルバープリント	29.3×24.7
25	写真	1-F-796	高橋 渡	(題不詳)	1930年代-1940年代	ゼラチンシルバープリント	27.0×25.1
26	写真	1-K-421	高橋 渡	アルバム(5)	1930年代-1940年代	ゼラチンシルバープリント	18.5×25.0
27	写真	1-K-422	高橋 渡	アルバム(10)	1930年代-1940年代	ゼラチンシルバープリント	18.5×25.0
28	素描	2-D-1636	川俣 正	福岡市美術館「素材と空間」展Plan	1983年	印刷物 コラージュ、テープ、マーカー・紙	67.0×45.8
29	彫刻等	2-G-60	寺田 健人	uchikabi for militarism	2023	薬莢、紙、ブリキ、アクリル、切れた電球	45.0×30.0×8.0
30	彫刻等	2-G-61	寺田 健人	barrack and peace #1 green space plan	2023	トタン、写真、蛍光灯	125.0×65.0
31	彫刻等	2-G-62	寺田 健人	barrack and peace #2green space plan	2023	トタン、写真、蛍光灯	125.0×65.0

購入(10点)

No.	種別	所蔵品番号	作者名	作品名	制作年	技法(日)	サイズ
1	油彩等	1-A-773	田中 千智	きょう、世界のどこか	2011	油彩、アクリル・画布	227.0×364.0
2	油彩等	1-A-774	田中 千智	天国のような地獄	2014	油彩、アクリル・画布	248.5×333.3
3	油彩等	1-A-776	KYNE	Untitled	2024	アクリル・画布	227.3×181.8
4	写真	1-F-786	高橋 渡	DUET	1937	ゼラチンシルバープリント	29.1×25.0
5	彫刻等	2-G-58	寺田 健人	the gunshot still echos	2023	コンクリートにUVプリント、木材、弾薬箱、薬莢(真鍮)	30.0×30.0×5.0
6	彫刻等	2-G-59	寺田 健人	okinawan silence	2024	コンクリートにUVプリント	120.0×150.0×5.0

No.	種別	所蔵品番号	作者名	作品名	制作年	技法(日)	サイズ
7	油彩等	27-A-4	興梠 優護	/ 72	2018 (加筆2020)	油彩・画布	227.0×162.0×5.0
8	彫刻等	27-G-1	牛島 智子	家婦	2020	幕絵：布、接着芯、木綿糸、和紙 立体 作品：和紙、アルミ線、発泡スチロール、 アクリル絵具、コンニャク糊、蒂	可変
9	彫刻等	27-G-2	オーギカナエ	空に登って集まって、めじろ 眼鏡の森、白い花～植物は 考え歩き行動する～	2024	床オブジェ：亜鉛引き鉄板、真鍮壁オブ ジェ：アクリル絵の具・ハ女手漉和紙	可変
10	彫刻等	27-G-3	SECOND PLANET	カタストロフが訪れなかった 場所	2024	スライドフィルム26枚組、スライドプロ ジェクター、脚立、デジタル音源、スピー カー、マイク、マイクスタンド、シールド、パ ワーアンプ、ベースアンプ、アナログミキ サー、再生機	可変

古美術

所蔵品番号順、研究資料は末尾に記載

寄贈(5件)

No.	種別	所蔵品番号	作者名・産地	作品名	時代	素材・技法	法量
1	書跡	14-I-13	松永安左エ門[耳庵]	花紅葉	昭和36年(1961)	紙本墨書	縦68.0 横16.5
2	彫刻	14-G-9	中国	無量寿仏坐像(塙仏)	清時代・乾隆49年 (1784)	粘土	高さ11.4 幅4.2 最大厚3.0
3	彫刻	14-G-10	中国	白多羅菩薩坐像(塙仏)	清時代・嘉慶13年 (1808)	粘土	高さ11.5 幅7.9 最大厚2.5
4	彫刻	14-G-11	中国	無量寿仏坐像(塙仏)	清時代・18-19世紀	粘土	高さ10.3 幅6.6 最大厚3.0
5	彫刻	14-G-12	中国	無量寿仏坐像(塙仏)	清時代・18-19世紀	粘土	高さ11.2 幅6.7 最大厚3.2

図書・映像資料

図書

単位(冊)			
		和書	洋書
購入	図書	48	4
	図録	0	8
	年報・紀要	0	0
寄贈	図書	63	16
	図録	487	28
	年報・紀要	210	0
製本資料		0	0
雑誌		229	55
合計		1,037	111
総計		1,148	

映像資料

単位(点)		
購入	CD	0
	DVD	0
寄贈	CD	0
	DVD	0
合計		0

修復

近現代美術

種別	所蔵品番号	作家名	作品名	寸法 (cm)	制作年	素材・技法	数量
油彩等	1-A-767	吉田 博	(題不詳)	61.0×45.0	大正～昭和初期	油彩・画布	1

古美術

種別	所蔵品番号	産地(作者)	作品名	法量 (cm)	制作年	品質	数量
絵画	4-B-98		泰西風俗図屏風(重要文化財)	縦97.1 横280.2	桃山～江戸時代・17世紀	紙本着色	六曲一双

貸出

近現代美術

種別	作者名	作品名	所蔵番号	展覧会名	会場	会期
版画	吉田 博	(印度と東南アジア編) タジマハルの朝霧 第五	1-E-200	「Yoshida: Three Generations of Japanese Printmaking」	Dulwich Picture Gallery	令和6年6月19日(水)～ 11月3日(日)
版画	吉田 穂高	SUOMIの家 (町中の家)	2-E-495			
版画	吉田 穂高	町外れの神話,夕	2-E-479			
版画	吉田 穂高	町外れの神話,昼	2-E-478			
版画	吉田 穂高	プロフィールたち	2-E-462			
版画	吉田 穂高	大空の神話	2-E-458			
版画	吉田 穂高	Nonsense Mythology	2-E-457			
版画	吉田 穂高	クルマ・黄	2-E-444			
版画	吉田 穂高	タコ	2-E-442			
版画	吉田 穂高	古代人・黄	2-E-441			
版画	吉田 穂高	古代戦士のプロフィール	2-E-437			
版画	吉田 穂高	Woods	2-E-434			
版画	吉田 穂高	弘仁佛	2-E-433			
版画	吉田 遠志	煙突の森	2-E-902			
版画	吉田 遠志	カモフラージュ	2-E-903			
版画	吉田 遠志	サンフランシスコ	2-E-904			
版画	吉田 遠志	モニュメントヴァレー	2-E-821			
版画	吉田 遠志	サンタフェ	2-E-819			
版画	吉田 遠志	滝	2-E-817			
版画	吉田 遠志	天龍寺の庭	2-E-807			
版画	吉田 遠志	窓と石庭	2-E-808			
版画	吉田 遠志	石庭	2-E-806			
版画	吉田 遠志	ブルージュ	2-E-901			
版画	吉田 遠志	お城	2-E-779			
版画	吉田 遠志	夜の東京 両国橋より	2-E-759			
版画	吉田 遠志	夜の東京 新宿	2-E-755			
版画	吉田 遠志	夜の東京 屋台店	2-E-756			
版画	吉田 博	御室	1-E-260			
版画	吉田 博	温泉之春	1-E-261			
版画	吉田 博	上野公園	1-E-234			

種別	作者名	作品名	所蔵番号	展覧会名	会場	会期
版画	吉田 博	藤之庭	1-E-229	「Yoshida: Three Generations of Japanese Printmaking」	Dulwich Picture Gallery	令和6年6月19日(水)～11月3日(日)
版画	吉田 博	(印度と東南アジア編) タジマハルの夜 第六	1-E-201			
版画	吉田 博	糸魚川にて	1-E-150			
版画	吉田 博	糸魚川にて 朝	1-E-149			
版画	吉田 博	溪流	1-E-140			
版画	吉田 博	姫路城(朝)	1-E-107			
版画	吉田 博	根津正直八百屋	1-E-106			
版画	吉田 博	雲井櫻	1-E-101			
版画	吉田 博	東京拾二題 神楽坂通 雨後の夜	1-E-93			
版画	吉田 博	東京拾二題 亀井戸	1-E-87			
版画	吉田 博	富士拾景 朝日	1-E-72			
版画	吉田 博	日本アルプス十二題 剱山の朝	1-E-53			
版画	吉田 博	(欧州之部) スフィンクス 夜	1-E-40			
版画	吉田 博	(欧州之部) スフィンクス	1-E-39			
版画	吉田 博	(欧州之部) マタホルン山	1-E-44			
版画	吉田 博	(米国之部) エル キャプタン	1-E-37			
版画	吉田 博	(米国之部) グランドキャニオン	1-E-38			
版画	吉田 博	(欧州之部) ヴェニスの運河	1-E-36			
版画	吉田 博	(欧州之部) アゼンスの古跡(夜)	1-E-34			
油彩画等	黒田 清輝	婦人像	1-A-37	「鹿児島市立美術館開館70周年記念 没後100年 黒田清輝とその時代」	鹿児島市立美術館	令和6年7月24日(水)～9月1日(日)
油彩画等	ルイ＝ジョゼフ＝ラファエル・コラン	若い娘	3-A-2			
写真	瑛九	無題	1-F-33	「瑛九―まなざしのその先に―」	横須賀美術館	令和6年9月14日(土)～11月4日(月・休)
写真	瑛九	自転車	1-F-20			
写真	瑛九	コンストラクション	1-F-24			
油彩画等	瑛九	丸 2	1-A-29			
油彩画等	中村 彝	顔	7-A-32	没後100年 中村彝展 ―アトリエから世界へ	茨城県近代美術館	令和6年11月10日(日)～令和7年1月13日(月・祝)
油彩画等	中村 彝	静物	7-A-33			

古美術

種別	産地(作者)	作品名	所蔵品番号	出品展覧会	展覧会場	展覧会期
漆工		珠数文蒔絵八角沈箱	6-Hb-24	表千家北山会館 開館30周年記念特別展「わびと数寄 ―受け継がれる利休の心―」	表千家北山会館 3階展示室	令和6年9月13日(金)～12月15日(日)
書跡	松永安左エ門	乾坤一擲	14-I-3			
絵画	仙厓義梵	鳳あげ図	9-B-33	特別展「遊びのすがた―工芸と絵画で見る玩具の美術―」	和泉市久保惣記念美術館・本館	令和6年9月15日(日)～11月17日(日)
絵画	狩野昌運	異代同戯図巻	14-B-28			
漆工		梨子地三葉葵紋戔金鞍	4-Hb-164	関ヶ原 よみがえる天下分け目の戦い(仮)	岐阜関ヶ原古戦場記念館	令和6年10月8日(火)～11月24日(日)
金工		火縄銃 (烏天狗図金象嵌)	4-Hc-186			
染織		金欄軍袍 (亀甲地文牡丹唐草金欄)	4-Hd-181			

広報業務

ホームページとSNSの運用

美術館の概要や展示、イベント等をホームページで紹介するほか、SNS（X、フェイスブック、インスタグラム）を活用した情報発信を積極的に行った。

○福岡市美術館ホームページ <https://www.fukuoka-art-museum.jp/>

○福岡市美術館X https://x.com/fukuoka_fam

○福岡市美術館Facebook <https://www.facebook.com/fukuokaartmuseum/>

○福岡市美術館Instagram <https://www.instagram.com/fukuokaartmuseum/>

令和6年度ホームページ閲覧数、SNSフォロワー数

ホームページ訪問数	X フォロワー数	Facebook フォロワー数	Instagram フォロワー数
1,589,025	14,643人	6,438人	23,000人

プレスリリースなどによる広報

テレビ、新聞、美術出版社、タウン情報誌等の各種メディアに対してプレスリリースを配信。観覧者誘致に向けた取り組みを行う。

各種メディアへの情報提供延べ件数／7,821件

イベントの実施

緑溢れる大濠公園に位置する当館の魅力を最大限に活用し、多くの市民や観光客が楽しめるミュージアムイベントを、年間を通じて実施し、美術以外の入口からも美術館を訪れる人々の賑わいを創出。令和6年度はコンサートをはじめ、落語会や、屋外スペースで秋祭りを実施した。

実施事業		実施日等	会場	参加人数
桂春蝶の落語で伝えたい想い 第十作『太郎と太陽と大』	落語	8月10日(土)、11(日)	ミュージアムホール	10日140人 11日100人
「美術館の秋祭り」	イベント	10月12(土)～13(日)	アプローチ広場	3,505人
「プレゼンバトル 近現代美術編 山下裕二 VS 中山喜一朗」	講演会	11月10日(日)	ミュージアムホール	154人
「絵本とピアノのウィンター・ワンダーランド Happy Christmas Time!」	コンサート	12月7日(土)	ミュージアムホール	288人
「ジャズを聴きたくて Transparent Blue - RINA」	コンサート	2月16日(日)	ミュージアムホール	301人

カフェ・レストラン

1階と2階には、ホテルニューオータニ博多が運営するカフェ「アクアム」と、レストラン「プルヌス」があり、特別展開催期間中は、特別展コラボメニューの提供も行っている。

カフェ「アクアム」

アプローチ広場横にあるガラス張りのカフェでは、きらめく水面を眺めながら軽食やドリンクを楽しめる。朝食にぴったりのパンやコーヒー、サンドウィッチ等のランチメニュー、ケーキやソフトクリーム、アルコールやオードブルを取りそろえ、時間帯や目的によってお好みのアイテムを選択できる。

営業時間／9:00～19:00(ラストオーダー18:30)
※7月～10月の金・土曜日は9:00～20:00
(ラストオーダー19:30)

席数／58席



レストラン「プルヌス」

当館で最も眺めのいい位置にあるレストランでは、大濠公園やエスplanードを一望できる。地元食材を使った料理を中心に、和食・洋食のランチ、夕日や夜景とともに味わうワイン、週末限定のランチ等多彩なメニューを提供。また、展覧会とのコラボレーションメニューも実施している。

営業時間／平 日 11:00～20:30(ラストオーダー19:30)
土・日・祝 9:30～20:30(ラストオーダー19:30)
席数／84席



ミュージアムショップ

1階エントランスロビーにあるミュージアムショップでは、当館の所蔵品をモチーフにしたオリジナルグッズやレプリカをはじめ、展覧会図録、地元クリエイターによるグッズ、高取焼や博多織、博多人形などの伝統工芸品などを販売。福岡を訪れた記念や贈り物におすすめの商品も取りそろえる。

営業時間／9:30～17:30

※7月～10月の金・土曜日は9:30～20:00

オリジナル商品

博多人形工房の中村人形が制作・監修した気軽に人形の絵付け体験が楽しめる素焼きの博多人形《MASTER ROAD》、博多人形師の小副川太郎氏監修の福岡市美術館所蔵品モチーフの福かぶり猫《仙厓の虎図・フジタの猫》の他、当館のマスコットで開館以来、着実にファンを増やしている《こぶしくん》グッズなどを取り扱う。

認定商品／109点、31品目(令和7年3月末)



展示室

4月

室名	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	曜	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月・祝	火
特別展示室					—							—						—		KYNE展 観覧者数: 2,106人						KYNE展 観覧者数:4,221人					
ギャラリーA																			3人のパレット: Retrospective 観覧者数:701人							桐生東光展 観覧者数:1,348人					
ギャラリーB																										CORE 一斎藤モトイ抽象写真展— 観覧者数:632人					
ギャラリーC																			自由課題 たなけん展 Vol.9 観覧者数:775人							金継ぎ工芸会作品展2024 観覧者数:1,136人					
ギャラリーD																			第1回フォト蔵写真展 観覧者数:725人							末石清昌ワールド 「牧場物語」 観覧者数:1,146人					
ギャラリーE																			第59回游展 観覧者数:759人							70・77出発展 観覧者数:822人					
ギャラリーF																			花咲く、風光る展 観覧者数:851人							第6回博多を描く会展 観覧者数:838人					

5月

室名	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	曜	水	木	金	土	日	月・祝	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
特別展示室																																
ギャラリーA																																
ギャラリーB																																
ギャラリーC																																
ギャラリーD																																
ギャラリーE																																
ギャラリーF																																

6月

室名	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
	曜	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
特別展示室		KYNE展 観覧者数：1,202人			KYNE展 観覧者数：2,897人						KYNE展 観覧者数：2,953人								KYNE展 観覧者数：2,938人								KYNE展 観覧者数：4,105人					
ギャラリーA		趣味で始めた 水彩画展 観覧者数：394人			セキサバ倶楽部 写真展 観覧者数：757人						第119回太平洋展 第58回太平洋 西日本展 観覧者数：2,254人								第83回創元 福岡巡回展 観覧者数：2,617人								「宇宙の音」 Rina.K 初個展 観覧者数：373人					
ギャラリーB		洋画会 エルサバド 観覧者数：294人			島展 観覧者数：916人																						九州産業大学 芸術学部写真・映像 メディア学科 進藤ゼミナール 写真展 観覧者数：534人					
ギャラリーC		博多漆芸研究所 「漆と金継」展 観覧者数：422人																														
ギャラリーD		福岡読売写真 クラブ 第15回写真展 観覧者数：304人																														
ギャラリーE		恵風会 作品展 観覧者数：342人									かわいい動物たちの 写真 観覧者数：694人					SEIEN 写真倶楽部 作品展 観覧者数：445人																
ギャラリーF		—			江口慎一写真楽園 作品展「光の森vol.6」 観覧者数：725人						「一蓮托笑～ともに、笑 おう～」あなたの笑顔 が、誰かの勇気になる。 観覧者数：621人																					

7月

室名	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	曜	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月・祝	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
特別展示室					—						—			キース・ヘリング展 観覧者数：2,715人				キース・ヘリング展 観覧者数：3,018人							キース・ヘリング展 観覧者数：3,494人						キース・ヘリング展 観覧者数：1,029人	
ギャラリーA					—																				塩島亮太の solo EXHIBITION Vol.2 観覧者数：380人						紫彩展 観覧者数：221人	
ギャラリーB																									Fascinated by OKINAWA (yoc) 観覧者数：572人						阿部直昭絵画教室 “彩友会” 観覧者数：224人	
ギャラリーC																									ヨコテフサミ墨画展 観覧者数：638人							
ギャラリーD					第52回日本の書展 観覧者数：1,429人																				べい 米翔 驚愕の点描画展 （ヴァンセンヌ市 サロン名誉受賞記念） 観覧者数：669人							
ギャラリーE																									65才になったので、退職して、 残りの人生、絵に専念する 覚悟の藤田英夫展（Sight of Traces 痕跡のまなざし） 観覧者数：559人						グループ JAMA展'24 観覧者数：217人	
ギャラリーF																									第37回 工芸美術知新会展 観覧者数：886人						和田木彫 生徒作品展 観覧者数：382人	

8月

室名	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	曜	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月・祝	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
特別展示室	キース・ヘリング展 観覧者数:2,376人					キース・ヘリング展 観覧者数:4,513人					キース・ヘリング展 観覧者数:4,792人					キース・ヘリング展 観覧者数:3,949人					キース・ヘリング展 観覧者数:2,218人											
ギャラリーA	紫彩展 観覧者数:394人					重富 健二郎 個展 「ただそこに在ること」 観覧者数:929人					Shake 観覧者数:646人					第21回姚明中国 水墨画書道研究会展 観覧者数:411人																
ギャラリーB	阿部直昭絵画教室 観覧者数:446人 グラフィック 彩友会					武蔵野美術大学校友会 福岡支部展 観覧者数:842人					西日本新聞 書道之友展2024 観覧者数:6,867人					桑樹展 観覧者数:710人					よかも 観覧者数:1,109人											
ギャラリーC																																
ギャラリーD																																
ギャラリーE	グループ JAMA展'24 観覧者数:421人					歸雲書展「さんげ」 ―八月の自分― 観覧者数:655人					喜寿老人 元気出せニッポン 平和縄文人と大和心を書く 観覧者数:419人					第8回OZC 福岡支部写真展 観覧者数:449人																
ギャラリーF	和田木彫 生徒作品展 観覧者数:812人				第64回 西日本フォトコンテスト 入賞作品展 観覧者数:861人				シボリコミュニティ福岡 第22回作品展 藍と絞り 観覧者数:724人				グループ テオ展 観覧者数:510人																			

9月

室名	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	曜	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月・祝	火	水	木	金	土	日	月・祝	火	水	木	金	土	日	月
特別展示室		キース・ヘリング展 観覧者数:1,459人		キース・ヘリング展 観覧者数:6,967人					—					—					—					—							
ギャラリーA		第21回姚明 中国水墨画 書道研究会展 観覧者数:250人		KINJIが爆発 ミス・ニヤータも参加 観覧者数:823人					第20回記念九大美術会展 観覧者数:1,067人					第29回九洋展 観覧者数:921人					福岡教育大学 特設書道科12期生 古希記念書道展 観覧者数:578人												
ギャラリーB				甲斐、片岡、清田 3人展 観覧者数:649人					第5回魚心堂教室 書画印展 観覧者数:1,291人					第60回記念游展 観覧者数:702人					第39回 「日本の海洋画展」 観覧者数:884人												
ギャラリーC		よかも 観覧者数: 704人		soyFIELD 絵画教室 作品展 観覧者数:1,204人										第3回 福岡絵画サークル グループ展示会 観覧者数:638人																	
ギャラリーD				第15回写友会 弥生 写真展 観覧者数:839人																											
ギャラリーE		第8回OZC 福岡支部 写真展 観覧者数: 353人		クロスステッチ刺繍展 観覧者数:1,096人					Ao Etching Studio 銅版画教室展 観覧者数:1,106人					上野真歩 個展 観覧者数:931人					玉石会展 観覧者数:379人												
ギャラリーF		グループ テオ展 観覧者数: 203人	薫風会 佛像彫刻作品展 観覧者数:1,121人				リベルテ113—OB展 観覧者数:1,330人				第10回野口正幸 絵画教室生徒作品展 観覧者数:979人				第54回青像 グループ写真展 観覧者数:361人																

10月

室名	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	曜	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月・祝	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
特別展示室	—								—								—								博多のみほとけ展 観覧者数：564人				博多のみほとけ展 観覧者数：464人			
ギャラリーA	松丸 伸吾 展 観覧者数：76人								第43回福岡きりえ展 観覧者数：1,410人								第10回示現会 福岡支部公募展 及び 第3回示現会女性会員展 観覧者数：1,686人								西区市民 美術展 観覧者数：648人							
ギャラリーB	令和6年 景柳書道学会 書道展 観覧者数：1,069人								第54回福岡市 高齢者美術展 観覧者数：1,256人								FLEETING MOMENTS 観覧者数：695人															
ギャラリーC																																
ギャラリーD																																
ギャラリーE	異種三人展 観覧者数：842人							西日本写真協会 福岡支部「フォトニ水会」 第28回作品展 観覧者数：1,060人							第10回示現会 福岡支部公募展 及び 第3回示現会女性会員展 観覧者数：—							キャトル ボワット展 観覧者数：384人										
ギャラリーF	高取デッサン会 人物画展 観覧者数：944人							田村正一展 観覧者数：646人							「書のときめき展'24」 一墨会&井上一光 観覧者数：1,203人																	

11月

室名	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
	曜	金	土	日	月・祝	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
特別展示室	博多のみほとけ展 観覧者数:790人					博多のみほとけ展 観覧者数:948人							博多のみほとけ展 観覧者数:1,287人							博多のみほとけ展 観覧者数:1,620人							博多のみほとけ展 観覧者数:934人					
ギャラリーA	西区 市民美術展 観覧者数:849人					写真倶楽部「絆」 作品展 観覧者数:487人							九州産業大学 絵画専攻・映像メディア 専攻 合同展 観覧者数:859人							第19回 福岡文化連盟祭り アートビエンナーレ福岡 2024 観覧者数:1,508人							第44回 南区美術展 観覧者数:685人					
ギャラリーB						N548展 2024 観覧者数:754人							第45回 中央区市民文化祭 美術作品展 観覧者数:1,160人																			
ギャラリーC																																
ギャラリーD																																
ギャラリーE																																
ギャラリーF	第27回石耀展 観覧者数:754人						字遊展 観覧者数:539人																									

12月

室名	日 曜	1 日	2 月	3 火	4 水	5 木	6 金	7 土	8 日	9 月	10 火	11 水	12 木	13 金	14 土	15 日	16 月	17 火	18 水	19 木	20 金	21 土	22 日	23 月	24 火	25 水	26 木	27 金	28 土	29 日	30 月	31 火
特別展示室		博多のみほとけ展 観覧者数: 247人		博多のみほとけ展 観覧者数:1,599人							—							—							—							
ギャラリーA		第44回 南区 美術展 観覧者数: 312人		第52回九州行動展 観覧者数:717人							第8回 全九州高等学校 総合文化祭福岡大会 美術・工芸、書道、写真 合同展覧会 観覧者数:1,855人							第40回 城南区 市民アート展 観覧者数:1,116人							—							
ギャラリーB																																
ギャラリーC																																
ギャラリーD																																
ギャラリーE		鉛筆画 教室展 観覧者数: 236人		かたちとじぶん 二人展 観覧者数:533人							—							平安へのあこがれ 観覧者数:939人							—							
ギャラリーF		字遊展 観覧者数: 279人		第52回九州行動展 観覧者数:—																												

1月

室名	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	曜	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月・祝	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
特別展示室						—		—								—						—			トムとジェリー展 観覧者数：6,792人			トムとジェリー展 観覧者数：5,877人				
ギャラリーA						—		第71回 福岡県小学校児童画展 観覧者数：4,919人								令和6年度中央区 高齢者作品展 観覧者数：869人						福岡市中学校書作品展 観覧者数：1,123人						ファインアート展 (福岡市中学校 特別支援学級 合同作品展) 観覧者数：3,842人				
ギャラリーB							日本書写研究所 習字教室 第33回書写 コンクール作品展 観覧者数：1,711人									第56回 九州産業大学 造形短期大学部 卒業制作展 観覧者数：1,868人																
ギャラリーC																																
ギャラリーD																																
ギャラリーE																																
ギャラリーF							福岡水の会書展 観覧者数：799人																									

2月

室名	日 曜	1 土	2 日	3 月	4 火	5 水	6 木	7 金	8 土	9 日	10 月	11 火・祝	12 水	13 木	14 金	15 土	16 日	17 月	18 火	19 水	20 木	21 金	22 土	23 日	24 月・祝	25 火	26 水	27 木	28 金
特別展示室		トムとジェリー展 観覧者数：8,306人			トムとジェリー展 観覧者数：13,711人							トムとジェリー展 観覧者数：18,592人							トムとジェリー展 観覧者数：24,363人							トムとジェリー展 観覧者数：5,173人			
ギャラリーA		（福岡市中学校特別支援学級合同作品展） 観覧者数：4,218人			第74回 福岡市中学校美術展 観覧者数：7,330人							令和6年度水源の森 ポスター原画コンクール 観覧者数：768人							第91回独立展 観覧者数：1,359人							第50回 西日本 書美術展 観覧者数：2,679人			
ギャラリーB												第8回福岡市立 博多工業高等学校 インテリア科卒業制作展 観覧者数：1,189人																	
ギャラリーC																													
ギャラリーD																													
ギャラリーE												第23回絵画造形教室 おそらのぞうさん作品展 観覧者数：905人																	
ギャラリーF												根石桜 写真展 「blank stare / ビニールハウス」 観覧者数：530人																	

3月

室名	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31					
	曜	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	祝	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月				
特別展示室	トムとジェリー展 観覧者数：8,704人		トムとジェリー展 観覧者数：18,068人									トムとジェリー展 観覧者数：20,660人							トムとジェリー展 観覧者数：11,578人		第56回 福岡市美術展 観覧者数：2,037人																
ギャラリーA	第50回西日本書美術展 観覧者数：2,355人		2024アジア デジタルアート大賞展 FUKUOKA 観覧者数：1,221人									福岡二紀展 2024 観覧者数：2,782人							第108回二科展 巡回福岡展 観覧者数：10,480人									第56回 福岡市美術展 観覧者数：1,668人									
ギャラリーB																																					
ギャラリーC																																					
ギャラリーD																																					
ギャラリーE																																					
ギャラリーF												第63回卒業展覧会 (九州大学書道部) 観覧者数：466人																									

特別展示室	FaN Week2024 コレクターズⅢ－Turning the World－ 会期：令和6年9月14日（土）～10月14日（月） 2人のアートコレクター（植島幹九郎氏・高橋隆史氏）が所有する作品を、コレクターの思いとともに紹介した。
-------	--

ミュージアムホール等

	ミュージアムホール		アートスタジオ		レクチャールーム		アブローチ広場		ロビー		エスプラナード		合計	
	利用件数	利用者数	利用件数	利用者数	利用件数	利用者数	利用件数	利用者数	利用件数	利用者数	利用件数	利用者数	利用件数	利用者数
4月	12	1,793	10	274	23	433	0	0	0	0	2	41	47	2,541
5月	7	763	7	228	19	277	4	130	3	20	1	10	41	1,428
6月	11	1,184	14	507	22	480	4	48	1	6	0	0	52	2,225
7月	17	1,393	20	693	22	404	5	104	1	4	1	4	66	2,602
8月	14	1,403	12	302	15	448	0	0	1	54	0	0	42	2,207
9月	18	1,624	16	319	22	285	5	175	3	122	1	60	65	2,585
10月	19	827	20	621	29	517	7	4,580	2	10	1	40	78	6,595
11月	16	2,046	19	997	17	813	4	120	14	1,800	4	517	74	6,293
12月	12	1,297	15	736	21	676	0	0	3	18	0	0	51	2,727
1月	11	908	11	626	16	478	1	7	10	889	1	7	50	2,915
2月	13	1,093	11	424	22	673	1	10	3	102	1	10	51	2,312
3月	15	1,723	12	727	29	448	0	0	8	0	1	0	65	2,898
合計	165	16,054	167	6,454	257	5,932	31	5,174	49	3,025	13	689	682	37,328

令和6年度月別観覧者数

室名	コレクション展		特別企画展		貸館展		総数	
	開催日数(日)	観覧者数(人)	開催日数(日)	観覧者数(人)	開催日数(日)	観覧者数(人)	開催日数(日)	観覧者数(人)
4月	25	16,429	9	6,327	84	12,073	118	34,829
5月	27	23,459	27	14,424	109	15,277	163	53,160
6月	26	19,090	26	14,095	98	11,692	150	44,877
7月	26	22,048	16	10,256	62	8,280	104	40,584
8月	25	24,620	25	17,848	85	17,205	135	59,673
9月	25	22,613	7	8,426	118	18,409	150	49,448
10月	27	25,307	5	1,028	81	13,071	113	39,406
11月	26	20,341	26	5,579	61	9,113	113	35,033
12月	23	17,369	7	1,846	33	5,987	63	25,202
1月	23	17,674	0	0	49	28,674	72	46,348
2月	24	15,382	0	0	73	89,123	97	104,505
3月	26	17,083	6	3,705	49	76,314	81	97,102
合計	303	241,415	154	83,534	902	305,218	1,359	630,167

美術館協議会委員

任期 令和7年3月1日から令和9年2月28日まで
(50音順・敬称略・役職名は令和6年度のもの)

会長	浦上 雅司	福岡大学人文学部教授
副会長	植野 かおり	(公財)立花家史料館館長
学校教育関係者	西田 淳一	福岡市立城西中学校校長
	萬 順	福岡市立千代小学校校長
社会教育関係者	大野 城児	福岡市公民館館長会副会長
	野口 尚美	福岡市七区男女共同参画協議会代表
	松尾 さち	JOY倶楽部職業指導員
家庭教育関係者	重永 侑紀	特定非営利活動法人子どもNPOセンター福岡理事
学識経験者	李 善姬	韓国語講師
	黒岩 俊哉	九州産業大学芸術学部教授
	瀬戸口 朗子	美術作家
	千 相哲	九州産業大学副学長
	山内 泰	NPO法人ドネルモ代表理事

収集審査員

(50音順・敬称略・役職名は令和6年度のもの)

近現代美術	魚里 洋一	福岡県人づくり・県民生活部文化振興課 新県立美術館建設室技術主査
	大日方 欣一	九州産業大学芸術学部 写真・映像メディア学科教授
	島 敦彦	国立国際美術館館長
古美術	植野 かおり	(公財)立花家史料館館長
	梶山 博史	中之島香雪美術館学芸課長
	臺信 祐爾	元九州国立博物館学芸部文化財課長
	原田 あゆみ	東京国立博物館学芸企画部企画課課長

職員

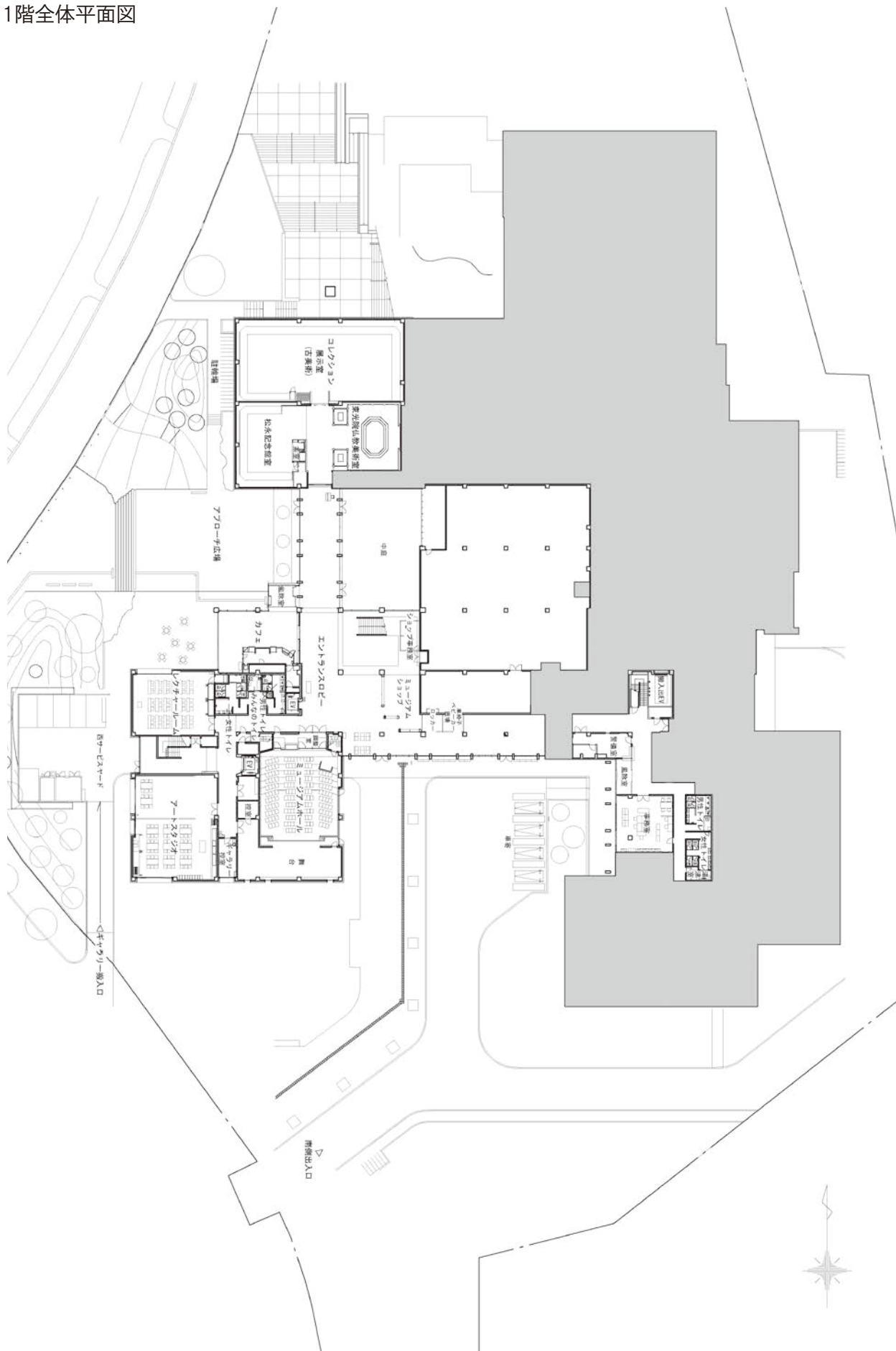
総館長	中山 喜一郎	教育普及係長	高田 瑠美
館長	岩永 悦子		崎田 明香
事業管理課長	宮崎 結香	古美術係長	
事業管理係長	吉谷 圭		宮田 太樹
	長嶋 みゆき	会計年度任用職員	田實 智子
	高津 佑奈	会計年度任用職員	太田 早耶
学芸課長	後藤 恒	会計年度任用職員	中務 美紀
近現代美術係長	ラワンチャイクン 寿子	会計年度任用職員	富坂 綾子
	渡抜 由季	会計年度任用職員	姜 知潤
	忠 あゆみ	会計年度任用職員	篠崎 未来
	山田 隆行	臨時的任用職員	高山 環
	花田 珠可子		

PFI事業者

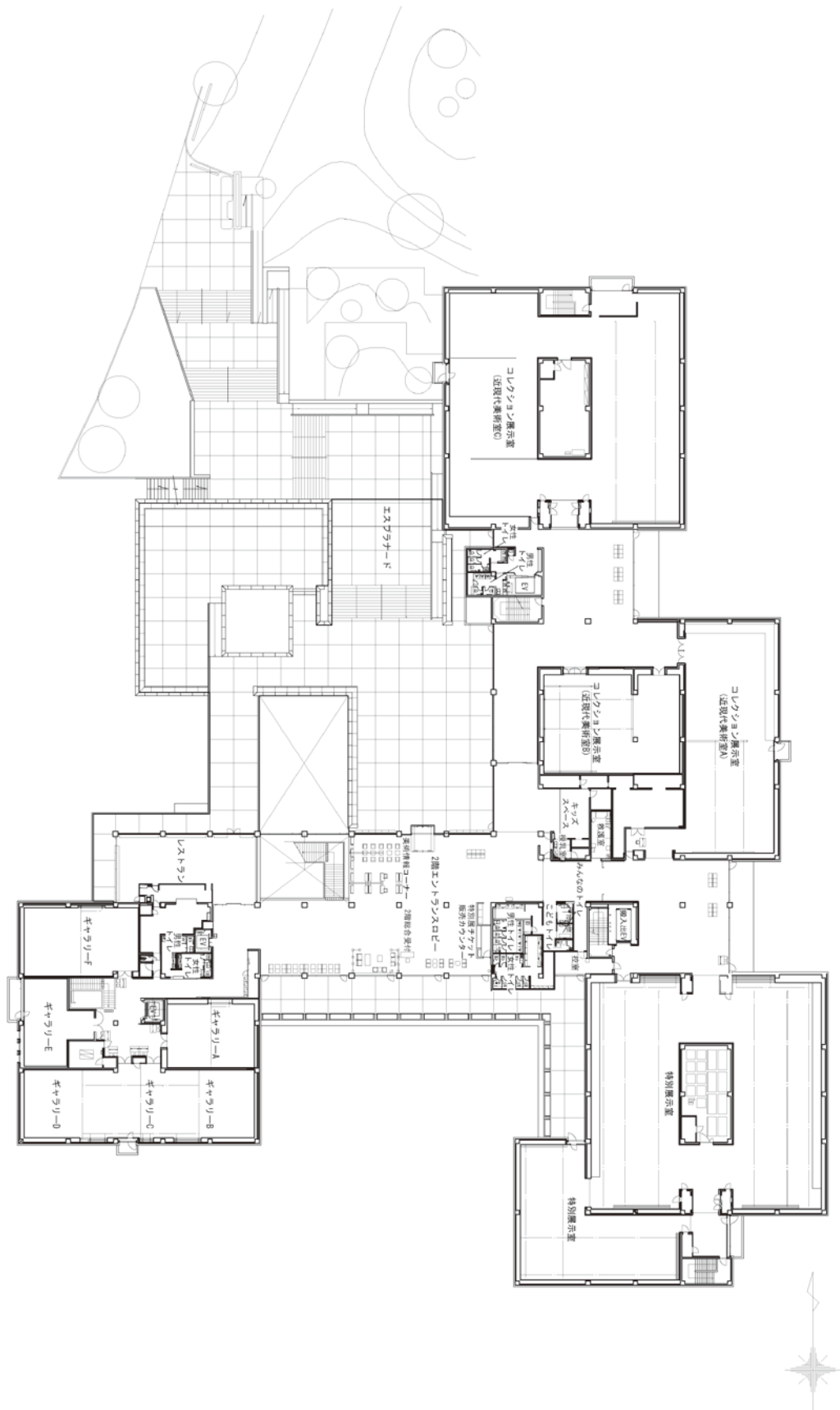
- 事業マネジメント：(株)大林組
- 維持管理：西鉄ビルマネジメント(株)
- 広報・運営：(株)西日本新聞社、(株)西日本新聞イベントサービス
- カフェ・レストラン：ホテルニューオータニ博多[(株)ニューオータニ九州]
- ミュージアムショップ：(株)オークコーポレーション

資料

福岡市美術館
1階全体平面図



福岡市美術館
2階全体平面図



施設概要

1. 建築概要

所在地	福岡県福岡市中央区大濠公園 1 番 6 号
設計	[新築] 前川國男建築設計事務所 [改修] 福岡アートミュージアムパートナーズ(株) (株)梓設計)
施工	[新築] 戸田建設(株)ほか [改修] 福岡アートミュージアムパートナーズ(株) (株)大林組)
工期	[新築] 1978 (昭和53)年 1 月～ 1979 (昭和54)年 10 月 [改修] 2017 (平成29)年 6 月～ 2018 (平成30)年 9 月
敷地面積	25,845.71㎡
建築面積	8,639.28㎡
延床面積	14,713.66㎡ (本館14,630.38㎡)
各階面積	1 階：8,271.82㎡ (付属棟含む) 2 階：6,242.24㎡ 屋上階：199.60㎡
最高高さ	15.00m
主体構造	鉄筋コンクリート造
主要な外部仕上げ	外壁：磁器質タイル打ち込みPC板 屋根：耐候性鋼板/瓦棒葺き/フッ素樹脂塗装 床：器室タイル

アートスタジオ (1 階)

面積：209.82㎡
天井高：3 m
定員：72席 (6 人掛け工作台 12 台)
付帯：流し台、大型鏡、可動壁
用途：ワークショップ、パフォーマンス、レクチャー、トーク
ショーなど

レクチャールーム (1 階)

面積：124.95㎡
天井高：3 m
定員：54席 (スクール形式 3 人掛け)、長机18台
付帯：スクリーン、流し台、音響機器
用途：講座、研修、ワークショップなど

主要施設

■展示室

東光院仏教美術室 (1 階)
古美術企画展示室 (1 階)
松永記念館室 (1 階)
近現代美術室 A (2 階)
近現代美術室 B (2 階)
近現代美術室 C (2 階)
特別展示室 (2 階) 床面積：1,054㎡、有効展示壁面長：327m、
天井高：5 m・3.9m
ギャラリー A (2 階) 床面積：100㎡、有効展示壁面長：51.12m、
天井高：4 m
ギャラリー B (2 階) 床面積：78.5㎡、有効展示壁面長：40.78m、
天井高：4 m
ギャラリー C (2 階) 床面積：110㎡、有効展示壁面長：39.98m、
天井高：4 m
ギャラリー D (2 階) 床面積：81㎡、有効展示壁面長：41.18m、
天井高：4 m
ギャラリー E (2 階) 床面積：82㎡、有効展示壁面長：40.79m、
天井高：4 m
ギャラリー F (2 階) 床面積：139㎡、有効展示壁面長：61.17m、
天井高：4 m

■その他施設

ミュージアムホール (1 階)
面積：288.2㎡
定員：180席・車椅子席 2 席
付帯：ホール控室、音響機器、照明設備
用途：講演会、上映会、演劇、コンサートなど

関連法規

○福岡市美術館条例

昭和54年3月8日

条例第38号

改正 昭和59年3月29日条例第41号

平成元年3月31日条例第34号

平成7年3月9日条例第44号

平成10年10月1日条例第47号

平成14年3月28日条例第38号

平成24年3月29日条例第38号

平成30年3月29日条例第40号

令和5年3月20日条例第35号

(設置)

第1条 市民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、福岡市美術館（以下「美術館」という。）を福岡市中央区大濠公園に設置する。

(事業)

第2条 美術館は、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 美術作品その他の美術に関する資料（以下「美術作品等」という。）を収集し、保管し及び展示すること。
- (2) 美術に関する調査及び研究を行うこと。
- (3) 美術に関する展覧会、講演会、講習会等を開催し及びその奨励を行うこと。
- (4) 施設の利用に関すること。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、美術館の設置の目的達成に必要なこと。

(職員)

第3条 美術館に館長その他必要な職員を置く。

(観覧料)

第4条 美術館が主催して展示する美術作品等を観覧しようとする者は、別表第1に定める額の観覧料を納付しなければならない。

(利用の許可)

第5条 美術館の施設（別表第2に掲げるものに限る。）を専用的に利用しようとする者は、教育委員会規則で定めるところにより、教育委員会の許可を受けなければならない。許可を受けた者（以下「許可利用者」という。）が、許可を受けた事項を変更しようとするときもまた同様とする。

2 教育委員会は、前項の許可に際して、美術館の管理上必要な条件を付すことができる。

(平成30条例40・一部改正)

(利用の制限)

第6条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する場合は、美術館の利用を拒み、又は前条に規定する許可をせず、若しくは既にした許可を取り消すことができる。

- (1) 利用者（利用しようとする者を含む。以下本条において同じ。）が美術館の設置の目的に反する利用をし、又はそのおそれがあるとき。
- (2) 利用者がこの条例又はこの条例に基づく規則の規定に違反し、又はそのおそれがあるとき。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、美術館の管理上支障があると認められるとき。

2 前項の措置によって利用者が損害を受けても、本市はその責めを負わない。

(入館の制限)

第7条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入館を拒み、又は退館を命ずることができる。

- (1) 他人に迷惑をかけ、若しくは展示品又は施設設備等を損傷するおそれがあると認められるもの
 - (2) 管理上の指示又は指導に従わないもの
 - (3) 管理上支障があると認められるもの
- (利用する権利の譲渡等の禁止)

第8条 許可利用者は、美術館を利用する権利を譲渡し、又は転貸してはならない。

(平成30条例40・一部改正)

(特別な設備)

第9条 許可利用者は、美術館に特別な設備をし、又は変更を加えてはならない。ただし、教育委員会が特に認めたときは、この限りでない。

2 教育委員会は、管理上必要があると認めるときは、許可利用者の負担において特別な設備をさせることができる。

3 前2項に規定する設備は、利用許可期限満了前に許可利用者の負担において撤去し、原状に復さなければならない。

4 許可利用者が前項に規定する撤去を行わないときは、教育委員会がこれを行い、その費用を許可利用者から徴収する。

(平成30条例40・一部改正)

(使用料)

第10条 次の各号に掲げる者からは、当該各号に定める額の使用料を徴収する。

- (1) 許可利用者 別表第2に定める額の使用料
- (2) 駐車場を利用する者 別表第3に定める額の駐車場使用料
- 2 前項第1号の使用料は、前納とする。
- 3 第1項第2号の駐車場使用料は、駐車場を利用した者が出庫するときに徴収する。

(平成30条例40・一部改正)

(撮影等の許可及び手数料)

第11条 学術研究等のため、美術館に展示され、又は所蔵されている美術作品等の撮影、模写、模造等をしようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

2 前項に規定する許可を受けた者からは、1点1回につき2,200円の範囲内で教育委員会規則で定める額の手数を徴収する。

(平成7条例44・一部改正)

(観覧料等の不還付)

第12条 既納の観覧料、使用料及び手数料（以下「観覧料等」という。）は、還付しない。ただし、教育委員会が特別の理由があると認める場合は、その全部又は一部を還付することができる。

(観覧料等の減免)

第13条 教育委員会は、特別の理由があると認める場合は、観覧料等を減免することができる。

(利用者の管理義務)

第14条 利用者は、利用期間中その利用に係る美術館の施設、付属設備及び図書資料等を善良な管理者の注意をもつて管理しなければならない。

(損害賠償)

第15条 利用者が、美術館の施設、付属施設、展示品又は図書資料等を破損し、滅失し、又は汚損して本市に損害を与えたときは、これを原状に復し、又はその損害を賠償しなければならない。

(立入り)

第16条 許可利用者は、美術館の管理の業務に従事する者が職務のため当該利用に係る施設に立ち入ろうとするときは、これを拒むことができない。

(平成30条例40・一部改正)

(美術館協議会)

第17条 博物館法（昭和26年法律第285号）第23条の規定により、美術館に美術館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

2 協議会は、美術館及び福岡アジア美術館条例（平成10年福岡市条例第47号）により設置された福岡アジア美術館の運営に関し、それぞれの館長の諮問に応じるとともに、これらの館長に対して意見を述べるものとする。

3 協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから任命するものとする。

4 協議会の委員の定数は、20人以内とする。

5 協議会の委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

6 協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

（平成10条例47・平成24条例38・令和5条例35・一部改正）

（委任）

第18条 この条例に定めるもののほか、美術館の管理に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

（施行期日）

1 この条例の施行期日は、教育委員会規則で定める。

（昭和54年教規則第11号により昭和54年11月3日から施行）

（福岡市美術館条例の廃止）

2 福岡市美術館条例（昭和53年福岡市条例第37号）は、廃止する。（施行日前における許可等）

3 第1項の規定に基づく教育委員会規則が公布されたときは、この条例の施行の日前においても、この条例の施行の日以後の美術館の利用について教育委員会規則で定めるところにより利用の許可をし、及び使用料を徴収することができる。

附 則（昭和59年3月29日条例第41号）

（施行期日）

1 この条例は、昭和59年4月1日から施行する。

（経過措置）

2 この条例による改正後の福岡市美術館条例別表第2の規定にかかわらず、この条例の施行の日（以下「施行日」という。）前に施行日以後の展示室及び講座室等の利用について許可を受け、当該利用に係る使用料を納付している者の当該使用料の額については、なお従前の例による。

附 則（平成元年3月31日条例第34号）

（施行期日）

1 この条例は、平成元年4月1日から施行する。

（経過措置）

2 この条例による改正後の福岡市美術館条例別表第2の規定にかかわらず、この条例の施行の日（以下「施行日」という。）前に施行日以後の展示室及び講座室等の利用について許可を受け、当該利用に係る使用料を納付している者の当該使用料の額については、なお従前の例による。

附 則（平成7年3月9日条例第44号）

（施行期日）

1 この条例は、平成7年5月1日から施行する。

（経過措置）

2 この条例による改正後の福岡市美術館条例別表第2の規定にかかわらず、この条例の施行の日（以下「施行日」という。）前に施行日以後の展示室及び講座室等の利用について許可を受け、当該利用に係る使用料を納付している者の当該使用料の額については、なお従前の例による。

附 則（平成10年10月1日条例第47号）抄

（施行期日）

1 この条例は、教育委員会規則で定める日から施行する。

（平成10年教委規則第7号により平成11年1月1日から施行）

附 則（平成14年3月28日条例第38号）

この条例は、平成14年4月1日から施行する。

附 則（平成24年3月29日条例第38号）

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

附 則（平成30年3月29日条例第40号）

（施行期日）

1 この条例は、教育委員会規則で定める日から施行する。

（平成30年教委規則第14号により平成31年3月21日から施行）

（施行日前における利用の許可等）

2 前項の規定に基づく教育委員会規則が公布されたときは、この条例の施行の日前においても、同日以後の美術館（この条例による改正後の福岡市美術館条例（以下「改正後の条例」という。）別表第2に掲げる施設に限る。）の利用について、改正後の条例の規定の例により許可をし、及び使用料を徴収することができる。

附 則（令和5年3月20日条例第35号）

この条例は、令和5年4月1日から施行する。

別表第1

（平成元条例34・平成14条例38・一部改正）

美術作品等観覧料

区分		金額	
		個人	20人以上の団体
常設展示 観覧	一般	200円	1人につき 150円
	大学生・高校生	150円	1人につき 100円
特別展示観覧		1人につき2,000円以内で 教育委員会が定める額	

備考

1 常設展示観覧とは、美術館が平常的に展示する美術作品等の観覧をいい、特別展示観覧とは、美術館が特別に展示する美術作品等の観覧をいう。

2 一般とは、大学生・高校生及び中学生以外の者で15歳以上のものをいい、大学生・高校生とは、大学、高等専門学校、高等学校、専修学校、各種学校又はこれらに準ずるものに在学する者をいう。

別表第2

（昭和59条例41・平成元条例34・平成7条例44・平成30条例40・一部改正）

1 展示室使用料

区分		単位	金額(円)
特別展示室			36,600
ギャラリー	A	1日につき	3,700
	B		2,700
	C		3,700
	D		2,700
	E		2,700
	F		4,600

2 ホール等使用料

区分	単位	金額(円)
レクチャールーム	1時間につき	1,100
アートスタジオ		2,200
ミュージアムホール		2,200

3 ロビー等使用料

区分	単位	金額(円)
ロビー	1日1平方メートルにつき	200
エスプラナード		200
アプローチスペース		200

備考

- 1 許利用者が入館者から入場料を徴収する場合の使用料の額は、この表の金額の2倍の額とする。
- 2 使用料の算定に当たって用いる日数又は時間数に1日又は1時間未満の端数があるときは、当該端数をそれぞれ1日又は1時間とみなす。
- 3 ギャラリー B又はギャラリー Dに係る許利用者は、ギャラリー Cの一部について第5条第1項の許可を受けることができるものとする。この場合において、ギャラリー Cに係る使用料の額は、この表の金額に2分の1を乗じて得た額とする。
- 4 付属設備の使用料の額は、教育委員会規則で定める。

別表第3

(平成30条例40・追加)

駐車場使用料

区分	単位	金額(円)
普通自動車	1台1回につき 1時間までごとに	200
準中型自動車		200
中型自動車	1台1回につき 1日までごとに	2,000
大型自動車		2,000

備考 普通自動車とは道路交通法（昭和35年法律第105号）第3条に規定する普通自動車を、準中型自動車とは同条に規定する準中型自動車を、中型自動車とは同条に規定する中型自動車を、大型自動車とは同条に規定する大型自動車をいう。

○福岡市美術館条例施行規則

昭和54年7月2日

教育委員会規則第12号

改正 昭和59年3月31日教規則第3号

昭和61年3月31日教規則第2号

昭和63年3月31日教規則第15号

平成元年3月31日教規則第9号

平成3年3月28日教規則第7号

平成5年3月29日教規則第1号

平成5年3月29日教規則第8号

平成5年6月28日教規則第13号

平成6年3月31日教規則第13号

平成7年3月30日教規則第17号

平成8年3月28日教規則第7号

平成9年3月31日教規則第5号

平成12年3月30日教規則第1号

平成14年3月28日教規則第10号

平成14年7月1日教規則第12号

平成17年3月31日教規則第9号

平成17年7月14日教規則第12号

平成18年10月30日教規則第9号

平成19年3月29日教規則第8号

平成19年6月28日教規則第10号

平成22年3月29日教規則第2号

平成24年3月29日教規則第8号

平成27年10月8日教規則第18号

平成29年3月30日教規則第6号

平成30年3月29日教規則第5号

平成30年10月1日教規則第15号

(趣旨)

第1条 この規則は、福岡市美術館条例（昭和54年福岡市条例第38号。以下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

第2条及び第3条 削除

(平成24教規則8)

(職員)

第4条 福岡市美術館（以下「美術館」という。）に館長及び学芸課長を置く。

2 前項の職員のほか、特に必要なときは、その他の職員を置くことができる。

3 館長及び学芸課長は、職員のうちから命じる。

4 館長は、上司の命を受けて、美術館の事務を統理し、所属職員を指揮監督する。

5 学芸課長は、上司の命を受けて、美術館の事務を掌理し、及び処理する。

6 その他の職員は、上司の命を受けて分担する事務を処理する。

(平成24教規則8・全改)

(職務権限の代行)

第5条 館長に事故がある場合又は館長が欠けた場合において、特に事務取扱者を命じないときは、学芸課長が館長の職務権限を代理して行う。ただし、重要又は異例な事務については、教育次長の指揮を受けなければならない。

2 前項の規定により、館長の職務権限を代理して行う者がいないときは、館長の職務権限は、教育次長が行う。

(平成24教規則8・一部改正)

(開館時間)

第6条 美術館の開館時間は、午前9時30分から午後5時30分まで（毎年7月から10月までの間の各月の金曜日及び土曜日（以下「特

例日」という。)においては、午後8時まで)とする。ただし、入館は、午後5時まで(特例日においては、午後7時30分まで)とする。

2 次の各号に掲げる施設の供用時間は、当該各号に定めるとおりとする。

(1) 条例別表第2 2 ホール等使用料の表に掲げる施設 午前9時30分から午後9時まで

(2) 駐車場 午前9時から午後9時まで

3 前2項の規定にかかわらず、教育長が必要と認める場合は、開館時間又は前項第1号の施設の供用時間(以下「開館時間等」という。)を変更することができる。

(平成5教規則13・平成9教規則5・平成30教規則5・平成30教規則15・一部改正)

(休館日)

第7条 美術館の休館日は、次の各号に掲げるとおりとする。ただし、教育長が必要と認める場合は、これを変更し、又は臨時に休館日を設けることができる。

(1) 毎週月曜日(その日が休日(国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日をいう。以下同じ。))に当たるときは、その日後において最初の休日でない日)

(2) 12月28日から翌年1月4日まで

(平成9教規則5・平成17教規則9・平成30教規則15・一部改正)

(展示室等の利用)

第8条 条例第5条第1項の規定により美術館の施設の利用の許可を受けようとする者は、福岡市美術館施設利用許可申請書(様式第1号)により教育長に申請しなければならない。

2 前項の申請は、展示室については、利用しようとする日が1月1日から6月30日までの間である場合にあっては、当該利用しようとする日の属する年の前年の7月31日までに、7月1日から12月31日までの間である場合にあっては、当該利用しようとする日の属する年の1月31日までに行わなければならない。ただし、教育長が必要と認める場合は、この限りでない。

(平成30教規則5・一部改正)

(利用の許可)

第9条 教育長は、美術館の施設の利用を許可したときは、福岡市美術館施設利用許可書(様式第2号)を交付するものとする。

(利用の取止め)

第10条 美術館の施設の利用の許可を受けた者(以下「許可利用者」という。)が、利用の取止めをしようとする場合には、あらかじめ福岡市美術館施設利用取止め届(様式第3号)を教育長に提出しなければならない。

(平成30教規則5・一部改正)

(図書の利用)

第11条 美術館の図書の利用に関し必要な事項については、館長が別に定める。

(利用時間)

第12条 美術館の利用時間には、準備及び後片付けに要する時間を含むものとする。

(開館時間等以外の利用)

第13条 美術館の開館時間等以外及び休館日の利用は、美術館の運営上支障がない場合にのみ許可する。

(平成30教規則5・一部改正)

(撮影等の許可)

第14条 条例第11条第1項の規定により美術作品その他の美術に関する資料(以下「美術作品等」という。)の撮影、模写、模造等(以下「撮影等」という。)の許可を受けようとする者は、撮影等許可申請書(様式第4号)により館長に申請しなければならない。

2 館長は、前項の許可をしたときは、撮影等許可書(様式第5号)

を交付するものとする。

3 撮影等の許可は、観覧者の観覧に支障がなく、かつ、美術作品等の管理上支障がないと認められる場合にのみ許可するものとする。

(平成24教規則8・一部改正)

(入館者及び許可利用者の心得)

第15条 美術館の入館者は、次に掲げる事項を守らなければならない。

(1) 建物、付属設備又は美術作品等その他の備品を汚損し、又はそれらのおそれのある行為をしないこと。

(2) 他の入館者に迷惑をかけないこと。

(3) 所定の場所以外で飲食し、喫煙し、又は火気を使用しないこと。

(4) 危険物又は動物を持ち込まないこと。

(5) 許可なくして物品を販売し、又は展示しないこと。

(6) 館内を不潔にしないこと。

(7) 許可なくして美術作品等の撮影又は模写をしないこと。

(8) 施設、設備等の利用を終えたときは、これを原状に復すこと。

(9) 所定の場所以外に出入りしないこと。

(10) 前各号に掲げるもののほか、管理上の必要から美術館の管理の業務に従事する者が行う指示又は指導に従うこと。

2 許可利用者は、前項に規定するもののほか、次に掲げる事項を守らなければならない。

(1) 収容人員は、当該施設の所定の人員を超えないこと。

(2) 条例第7条各号のいずれかに該当する者に対しては、当該施設への入場を拒絶し、又は退場を命ずること。

(3) 火災、盗難、人身事故その他の事故防止に努めること。

(4) 当該施設への入場者に前項に規定する事項を守らせること。

(平成30教規則5・一部改正)

(利用後の点検)

第16条 許可利用者は、施設、設備、備品等の使用を終わつたときは、美術館の管理の業務に従事する者の点検を受けなければならない。

(平成30教規則5・一部改正)

(付属設備の使用料)

第17条 美術館の付属設備の使用料の額は、別表第1のとおりとする。

(撮影等の手数料)

第18条 条例第11条第2項に規定する手数料の額は、別表第2のとおりとする。

(使用料及び手数料の徴収)

第19条 条例第10条第1項第1号の使用料は、利用の開始までに徴収する。

2 手数料は、撮影等の開始までに徴収する。

(平成6教規則13・平成30教規則5・一部改正)

第19条の2 駐車場を利用する者は、自動車を入庫させるときに、駐車券(様式第2号の2)の交付を受けなければならない。

2 駐車場を利用した者が自動車を出庫させるときは、前項の規定に基づき交付を受けた駐車券により、条例第10条第1項第2号の駐車場使用料(以下「駐車場使用料」という。)を清算しなければならない。

(平成30教規則5・追加)

(使用料の還付)

第20条 条例第12条ただし書の規定による使用料の還付は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める額について行うものとする。

(1) 天災地変その他不可抗力により利用できなくなつたとき 全額

(2) 許可利用者(展示室の許可利用者を除く。)が利用日の10日

- 前までに利用取止め届を提出したとき 全額
- (3) 許可利用者が利用日の5日前(展示室の許可利用者については3月前)までに利用取止め届を提出したとき 5割相当額
(平成30教規則5・一部改正)
- (観覧料の減免)
- 第21条 条例第13条の規定による観覧料の減免は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める額について行うものとする。
- (1) 義務教育諸学校の児童又は生徒の引率者が当該義務教育諸学校の教育計画に基づき常設展示を観覧するとき 当該観覧料の全額
- (2) 障がい者(療育手帳、身体障害者福祉法(昭和24年法律第283号)に規定する身体障害者手帳又は精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(昭和25年法律第123号)に規定する精神障害者保健福祉手帳(以下「療育手帳等」という。)の交付を受けている者をいう。以下同じ。)又は特定医療費(指定難病)受給者証、特定疾患医療受給者証、先天性血液凝固因子障害等医療受給者証若しくは小児慢性特定疾病医療受給者証(以下「医療受給者証等」という。)の交付を受けている者が常設展示を観覧するとき 当該観覧料の全額
- (3) 障がい者の介護者が常設展示を観覧するとき 介護者1人の当該観覧料の全額
- (4) 市内に居住する65歳以上の者が常設展示を観覧するとき 当該観覧料の全額
- (5) 美術館の入館者が国民の祝日に関する法律第2条に規定する文化の日に常設展示を観覧するとき 当該観覧料の全額
- (6) 前各号に掲げるもののほか、教育長が特に必要と認めるとき 教育長が必要と認めるとき
- 2 前項第1号又は第6号の規定により観覧料の減免を受けようとする者は、福岡市美術館観覧料減免申請書(様式第6号)により教育長に申請しなければならない。ただし、教育長が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。
- 3 観覧料の減免を受けようとする者は、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、それぞれ当該各号に定める書類を美術館の管理の業務に従事する者に提示しなければならない。
- (1) 第1項第2号の規定により減免を受ける場合 療育手帳等又は医療受給者証等
- (2) 第1項第4号の規定により減免を受ける場合 本市が発行するシルバー手帳又は官公署が発行する証明書等(本人の氏名、住所及び生年月日が記載されているものに限る。)
(昭和59教規則3・追加、昭和63教規則15・平成8教規則7・平成14教規則10・平成14教規則12・平成17教規則9・平成17教規則12・平成24教規則8・平成27教規則18・平成29教規則6・平成30教規則5・一部改正)
- (使用料の減免)
- 第22条 条例第13条の規定による使用料(駐車場使用料を除く。)の減免は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める額について行うものとする。
- (1) 本市が主催し、又は経費の一部を負担して共催する行事に利用するとき 全額
- (2) 本市が経費の一部を負担して後援する行事に利用するとき 5割相当額
- (3) 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関がその行事に利用するとき 全額
- (4) 18歳未満の者を主体とする団体が利用するとき 5割相当額
- (5) 前各号に掲げるもののほか、教育長が特に必要と認めるとき 教育長が必要と認めるとき
- 2 前項の規定により使用料の減免を受けようとする者は、福岡市美術館使用料減免申請書(様式第7号)により教育長に申請しなければならない。ただし、本市が主催する行事に利用する場合は、

この限りでない。

(昭和59教規則3・追加、平成30教規則5・一部改正)

(駐車場使用料の減免)

第22条の2 次に掲げる自動車に係る駐車場使用料は、全額を免除するものとする。

- (1) 本市の公用自動車
- (2) 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関がその行事のために利用する自動車
- (3) 障がい者又は医療受給者証等の交付を受けている者が運転し、又は同乗する自動車
- (4) 前3号に掲げるもののほか、教育長が特に必要と認める自動車

2 前項第3号の規定により駐車場使用料の減免を受けようとする者は、療育手帳等又は医療受給者証等を美術館の管理の業務に従事する者に提示しなければならない。

(平成30教規則5・追加)

(美術館協議会の会長及び副会長)

第23条 条例第17条に規定する美術館協議会(以下「協議会」という。)に会長及び副会長各1人を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選によりこれを定める。
- 3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は欠けたときは、その職務を代理する。

(昭和59教規則3・旧第21条繰下)

(会議)

第24条 協議会の会議(以下「会議」という。)は、会長が招集する。

- 2 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。
- 3 会議の議事は、出席議員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(昭和59教規則3・旧第22条繰下)

(委任)

第25条 この規則に定めるもののほか、美術館の管理に関し必要な事項は、教育長が定める。

(昭和59教規則3・旧第23条繰下)

附 則

(施行期日)

- 1 この規則は、昭和54年11月3日から施行する。ただし、第3項の規定は、公布の日から施行する。
(福岡市美術館条例施行規則の廃止)

2 福岡市美術館条例施行規則(昭和53年福岡市教育委員会規則第14号)は、廃止する。

(施行日前における許可等)

3 条例附則第3項の規定による条例の施行の日における条例の施行の日以後の美術館の利用の許可及び使用料の徴収については、次の各号の定めるところによる。

- (1) 美術館の施設の利用の許可については、条例第5条及び第6条並びにこの規則第8条第1項及び第9条の規定の例による。
- (2) 使用料の徴収については、条例第4条、第10条、第12条及び第13条並びにこの規則第17条、第19条第1項及び第20条の規定の例による。

附 則(昭和59年3月31日教規則第3号)

(施行期日)

- 1 この規則は、昭和59年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この規則による改正後の福岡市美術館条例施行規則別表第1及び別表第2の規定にかかわらず、この規則の施行の日(以下「施行日」という。)前に施行日以後の付属設備の利用又は美術作品等の撮影等について許可を受け、当該利用又は撮影等に係る使用料及び手数料を利用の開始又は撮影等の開始までに納付している者

の当該使用料及び手数料の額については、なお従前の例による。

附 則（昭和61年 3 月31日教規則第 2 号）

この規則は、昭和61年 4 月 1 日から施行する。

附 則（昭和63年 3 月31日教規則第15号）

（施行期日）

1 この規則は、昭和63年 4 月 1 日から施行する。

（経過措置）

2 この規則による改正後の福岡市立今宿野外活動センター条例施行規則第12条、福岡市立少年科学文化会館条例施行規則第15条の3及び福岡市美術館条例施行規則第21条第3項中「シルバー手帳」とあるのは、当分の間、「シルバー手帳若しくは老人福祉手帳」とする。

附 則（平成元年 3 月31日教規則第 9 号）

この規則は、平成元年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 3 年 3 月28日教規則第 7 号）

この規則は、平成 3 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 5 年 3 月29日教規則第 1 号）

この規則は、平成 5 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 5 年 3 月29日教規則第 8 号）

（施行期日）

1 この規則は、平成 5 年 4 月 1 日から施行する。

（経過措置）

2 この規則による改正前の福岡市教育委員会規則の規定により作成された様式は、当分の間、なお所要の調整をして使用することができる。

附 則（平成 5 年 6 月28日教規則第13号）

この規則は、公布の日から施行する。

附 則（平成 6 年 3 月31日教規則第13号）

この規則は、公布の日から施行する。

附 則（平成 7 年 3 月30日教規則第17号）

（施行期日）

1 この規則は、平成 7 年 4 月 1 日から施行する。ただし、別表第 1 及び別表第 2 の改正規定並びに次項の規定は、平成 7 年 5 月 1 日から施行する。

（経過措置）

2 この規則による改正後の福岡市美術館条例施行規則別表第 1 及び別表第 2 の規定にかかわらず、平成 7 年 5 月 1 日前に同日以後の付属設備の利用又は美術作品等の撮影等について許可を受け、当該利用に係る使用料又は撮影等に係る手数料を納付している者の当該使用料及び手数料の額については、なお従前の例による。

附 則（平成 8 年 3 月28日教規則第 7 号）

この規則は、平成 8 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 9 年 3 月31日教規則第 5 号）

この規則は、公布の日から施行する。

附 則（平成12年 3 月30日教規則第 1 号）

この規則は、平成12年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成14年 3 月28日教規則第10号）

この規則は、平成14年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成14年 7 月 1 日教規則第12号）

この規則は、公布の日から施行する。

附 則（平成17年 3 月31日教規則第 9 号）

この規則は、平成17年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成17年 7 月14日教規則第12号）

（施行期日）

1 この規則は、平成17年 7 月15日から施行する。

（経過措置）

2 この規則による改正前の福岡市教育委員会規則の規定により作成された様式は、当分の間、なお所要の調整をして使用することができる。

附 則（平成18年10月30日教規則第 9 号）

この規則は、平成18年11月 1 日から施行する。

附 則（平成19年 3 月29日教規則第 8 号）

この規則は、平成19年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成19年 6 月28日教規則第10号）

この規則は、平成19年 7 月 1 日から施行する。

附 則（平成22年 3 月29日教規則第 2 号）

この規則は、平成22年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成24年 3 月29日教規則第 8 号）

この規則は、平成24年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成27年10月 8 日教規則第18号）

この規則は、平成27年11月 1 日から施行する。

附 則（平成29年 3 月30日教規則第 6 号）

この規則は、平成29年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成30年 3 月29日教規則第 5 号）

（施行期日）

1 この規則は、福岡市美術館条例の一部を改正する条例（平成30年福岡市条例第40号）の施行の日から施行する。

（経過措置）

2 この規則による改正前の福岡市美術館条例施行規則の規定により作成された様式は、当分の間、なお所要の調整をして使用することができる。

附 則（平成30年10月 1 日教規則第15号）

（施行期日）

1 この規則は、平成31年 3 月21日から施行する。

（施行日前における利用の許可等）

2 この規則の公布の日以後においては、この規則の施行の日前においても、同日以後の美術館の付属設備の利用について、この規則による改正後の福岡市美術館条例施行規則の規定の例により許可をし、及び使用料を徴収することができる。

別表第 1

（昭和59教規則 3 ・平成 7 教規則17 ・平成30教規則15 ・一部改正）

付属設備使用料

種別	区分	単位	金額(円)
展示設備	可動陳列ケース	1台1日	330
	スライド映写機	一式1時間	440
映写設備	8ミリ映写機	一式1時間	440
	16ミリ映写機	一式1時間	770
	プロジェクター	1台1時間	720
	書画カメラ	1台1時間	440
	ブルーレイプレイヤー	1台1時間	200
	スポットライト	一式1時間	220
音響照明設備	マイクロホン	一式1時間	220
	メモリーオーディオプレイヤー	1台1時間	200

備考 付属設備の使用時間に 1 時間未満の端数があるときは、これを切り上げる。

別表第 2

（昭和59教規則 3 ・平成 7 教規則17 ・一部改正）

撮影等手数料

区分			金額(円)	備考
撮影	モノクローム	A	220	Aは学術研究を目的とする場合、Bは学術研究以外を目的とする場合とする。
		B	1,650	
	カラー	A	440	
		B	2,200	
複写、模造			1,650	
熟覧			330	

様式第1号

福岡市美術館施設利用許可申請書

年 月 日

(宛先)福岡市教育委員会教育長

申請者 所在地

団体名

代表者

(電話)

次のとおり福岡市美術館の施設を利用したいので、許可を申請します。

なお、利用に際しては、福岡市美術館条例及び同条例施行規則を守るとともに、これらに基づく美術館の管理の業務に従事する者の指示に従います。

利用する施設		会場責任者氏名	(電話)
利用期間	展示室	年 月 日から 年 月 日まで	搬入 (時 分から 時 分まで)
		日間	展示 月 日から 月 日まで
	その他の施設	年 月 日(曜) 時 分から 年 月 日(曜) 時 分まで	搬出 (時 分から 時 分まで)
		利用目的	催物の名称
入 場 料	有料 (大人 円 学生 円 小人 円)	無料	入場者見込 延べ 人
館内での頒布物	有(有料・無料) 無		
共 催		後 援	
利用する付属設備	1 () 3 () 5 ()	2 () 4 () 6 ()	
使 用 料	施 設	付 属 設 備	計
(年度)	円	円	円

(注) 1 利用期間には、搬入、搬出の日も含まれます。
2 太枠線内のみ記入してください。

様式第2号

第 号

福岡市美術館施設利用許可書

年 月 日

様

福岡市教育委員会教育長 図

年 月 日申請の福岡市美術館の施設の利用については、次のとおり許可します。

利用する施設	
利用期間	展 示 室 年 月 日から 年 月 日まで 日間
	その他の施設 年 月 日 時 分 から 年 月 日 時 分 まで
利用目的	
催物の名称	
利用する付属設備	1 () 3 () 5 () 2 () 4 () 6 ()
留 意 事 項	1 福岡市美術館条例及び同条例施行規則を守るとともに、これらに基づく美術館の管理の業務に従事する者の指示に従ってください。 2 搬入及び搬出は、次の日時に行ってください。 搬入 年 月 日 時 分から 時 分まで 搬出 年 月 日 時から 時 分まで

様式第2号の2

入 月 日 時 分

出 月 日 時 分

駐車券【兼料金票】

福岡市美術館専用駐車場

様式第3号

福岡市美術館施設利用取止め届

年 月 日

(宛先)福岡市教育委員会教育長

申請者 所在地

団体名

代表者 ㊟

(電話)

次のとおり利用を取り止めますので、福岡市美術館条例施行規則第10条の規定によりお届けします。

許可年月日	年 月 日	許可番号	第 号
利用期間	年 月 日 時 分から 年 月 日 時 分まで		
利用の取止めをする施設又は付属設備			
既納使用料	使用料 円 付属設備使用料 円		
取止めの理由			

様式第4号

撮 影 等 許 可 申 請 書

年 月 日

(宛先)福岡市美術館長

申請者 住 所

氏 名

(電話)

次のとおり美術作品等の撮影等をしたので、許可を申請します。

なお、撮影等に際しては、福岡市美術館条例及び同条例施行規則を守るとともに、これらに基づく美術館の管理の業務に従事する者の指示に従います。

撮影等の目的					
美 術 品 等 の 名 称	点 数	作 者 名			
撮影等の日時					
方 法	撮 影 ・ 模 写 ・ 模 造 ・ 熟 覧				
備 考					
手数料	撮影	モノクローム	点	円	計
		カ ラ ー	点	円	
		模 写 ・ 模 造	点	円	
		熟 覧	点	円	

(注) 太枠線内のみ記入してください。

様式第 5 号

撮 影 等 許 可 書			第 号
年 月 日			
様			
福岡市美術館長			図
年 月 日申請の美術作品等の撮影等を許可します。			
撮影等の目的			
美 術 品 等 の 名 称	点 数	作 者 名	
撮影等の日時			
方 法	撮 影 ・ 模 写 ・ 模 造 ・ 熟 覧		
留 意 事 項	1 福岡市美術館条例及び同条例施行規則を守るとともに、これらに基づく美術館の管理の業務に従事する者の指示に従ってください。 2 撮影等に当たっては、美術館の管理の業務に従事する者の指示に従ってください。		

様式第 6 号

福岡市美術館観覧料減免申請書			
年 月 日			
(宛先)福岡市教育委員会教育長			
申請者	所在地		
	団体名		
	代表者	印	
	(電話)	
福岡市美術館条例施行規則第21条第2項の規定により次のとおり福岡市美術館観覧料の減免を申請します。			
観 覧 目 的			
観 覧 日 時	年 月 日 (曜 日) 時 分から		
観 覧 者 数	小 学 生	学 年	人
	中 学 生	学 年	人
	そ の 他		人
	引 率 者		人

様式第7号

福岡市美術館使用料減免申請書

年 月 日

(宛先)福岡市教育委員会教育長

申請者 所在地
団体名
代表者
(電話)

福岡市美術館条例施行規則第22条第2項の規定により次のとおり福岡市美術館使用料の減免を申請します。

事業名		
主催者名 (共催者名)		
後援者名		
利用施設		
利用期間	年 月 日(曜日) 時 分から 年 月 日(曜日) 時 分まで	
本後援 が共催 する場 又は合	※本市が負担する経費の額	円
	当該事業に要する経費の総額	円
摘要		

(注) ※印の欄は、経費を負担する市の担当課において記入を受けてください。

令和6年度

福岡市美術館活動の記録

編集・発行 福岡市美術館

〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6

TEL : 092-714-6051

印刷 株式会社西日本新聞プロダクツ

発行年月日 2025年12月25日

©福岡市美術館 2025年